

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホジシキ コウカガクエン 学校法人 行吉学園								
フリガナ大学の名称	コウヘンシヨウダガク 神戸女子大学 (Kobe Women's University)								
大学本部の位置	兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号								
大学の目的	建学の精神「民主的で文化的な国家を建設して世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」に基づき、高い識見を身に付けた心豊かな女性として自立し、人類社会の発展に貢献しようとする人材を育成する。								
新設学部等の目的	温かな心を育む教育を基盤として、変化する社会の健康ニーズにコミュニティの観点から柔軟に対応し、だれもが安全・安心・安寧に生活していける社会と人々の健康に積極的に関与していける自立した看護職を育成し、看護学の発展を通して、人類の福祉に貢献する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学部 [Faculty of Nursing] 看護学科 [Department of Nursing] 計	年	人	年次人	人	学士 (看護学)	年 月 第 年次 平成27年4月 第1年次	兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	神戸女子短期大学 総合生活学科〔定員減〕 (△30) (平成27年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
	新設分	看護学部 看護学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員
			人	人	人	人	人	人	人
			(6)	(1)	(7)	(4)	(18)	(5)	(35)
		計	9	2	9	8	28	7	47
			(6)	(1)	(7)	(4)	(18)	(5)	(35)
	既設分	文学部 日本語日本文学科	6	1	0	0	7	0	9
			(6)	(1)	(0)	(0)	(7)	(0)	(9)
		英語英米文学科	8	2	2	0	12	0	11
			(8)	(2)	(2)	(0)	(12)	(0)	(11)
神戸国際教養学科		5	2	2	1	10	0	22	
		(5)	(2)	(2)	(1)	(10)	(0)	(22)	
史学科	8	2	0	0	10	0	12		
	(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(12)		
教育学科	18	9	0	3	30	2	72		
	(18)	(9)	(0)	(3)	(30)	(2)	(72)		
健康福祉学部 社会福祉学科	6	5	0	1	12	2	10		
	(6)	(5)	(0)	(1)	(12)	(2)	(10)		
健康スポーツ栄養学科	6	3	1	2	12	1	6		
	(6)	(3)	(1)	(2)	(12)	(1)	(6)		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員	
			教授	准教授	講師	助教	計		
既設分	家政学部	家政学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	4 (4)	6 (6)
		管理栄養士養成課程	14 (14)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	8 (8)	13 (13)
		計	79 (79)	37 (37)	6 (6)	7 (7)	129 (129)	17 (17)	161 (161)
	合計		88 (85)	39 (38)	15 (13)	15 (11)	157 (147)	24 (22)	208 (196)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		61 (61)		45 (45)		106 (106)		
	技術職員		3 (3)		18 (18)		21 (21)		
	図書館専門職員		2 (2)		8 (8)		10 (10)		
	その他の職員		2 (2)		11 (11)		13 (13)		
	計		68 (68)		82 (82)		150 (150)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	60,601.00㎡	4,174.00㎡		17,849.56㎡		82,624.56㎡		神戸女子短期大学（必要面積7,200㎡）と共用
	運動場用地	9,999.00㎡	0.00㎡		6,675.28㎡		16,674.28㎡		
	小計	70,600.00㎡	4,174.00㎡		24,524.84㎡		99,298.84㎡		
	その他	75,023.61㎡	0.00㎡		0.00㎡		75,023.61㎡		
	合計	145,623.61㎡	4,174.00㎡		24,524.84㎡		174,322.45㎡		
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
		45,933.72㎡ (45,933.72㎡)	7,085.46㎡ (7,085.46㎡)		24,002.42㎡ (24,002.42㎡)		77,021.60㎡ (77,021.60㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	43室	21室	39室	6室 (補助職員 0人)		2室 (補助職員 1人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
		看護学部			33室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学・短大 全体での共用 分を含む図書 374,716冊 〔55,651冊〕 学術雑誌 3,260種 〔479種〕	
	看護学部看護学科	3,200 [500] (3,200 [500])	66 [13] (66 [13])	6 [5] (6 [5])	83 (83)	3,013 (663)	19 (0)		
	計	3,200 [500] (3,200 [500])	66 [13] (66 [13])	6 [5] (6 [5])	83 (83)	3,013 (663)	19 (0)		
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数			神戸女子短期大学と共用	
	1,967.78㎡		313席		110,000冊				
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	2,334.04㎡		テニスコート 3面						

経費の 見及び 維持方法 の概要	経費の 見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト含む)を含む
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	—	—	
		共同研究費等		7,332千円	7,332千円	7,332千円	7,332千円	—	—	
		図書購入費	15,437千円	4,864千円	4,864千円	4,864千円	4,864千円	—	—	
	設備購入費	122,912千円	90,246千円	29,514千円	4,000千円	4,000千円	—	—		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,900千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	—	—				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既設 大学等 の 状況	大学の名称	神戸女子大学大学院								
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
	家政学研究科 (博士前期課程)	年	人	年次 人	人		0.82		兵庫県神戸市須磨区 東須磨青山2番1号	
	食物栄養学専攻	2	8	—	16	修士 (食物栄養学)	1.12	昭和59年度		
	生活造形学専攻 (博士後期課程)	2	6	—	12	修士 (生活造形学)	0.41	平成7年度		
	食物栄養学専攻	3	2	—	6	博士 (食物栄養学)	0.33	平成元年度		
	生活造形学専攻	3	2	—	6	博士 (生活造形学)	0.50	平成9年度		
	文学研究科 (博士前期課程)						0.43			
	日本文学専攻	2	4	—	8	修士 (日本文学)	0.50	昭和61年度		
	英文学専攻	2	4	—	8	修士 (英文学)	0.25	昭和61年度		
	日本史学専攻	2	4	—	8	修士 (日本史学)	0.62	昭和61年度		
	教育学専攻 (博士後期課程)	2	4	—	8	修士 (教育学)	0.37	昭和62年度		
	日本文学専攻	3	2	—	6	博士 (日本文学)	0.04	平成5年度		
	英文学専攻	3	2	—	6	博士 (英文学)	0.00	平成4年度		
	日本史学専攻	3	2	—	6	博士 (日本史学)	0.00	平成3年度		
	教育学専攻	3	2	—	6	博士 (教育学)	0.16	平成元年度		
	大学の名称	神戸女子大学								
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
	文学部	年	人	年次 人	人		1.14		兵庫県神戸市須磨区 東須磨青山2番1号	
日本語日本文学科	4	60	—	240	学士 (日本語日本文学)	1.12	平成18年度			
英語英米文学科	4	60	—	240	学士 (英語英米文学)	1.03	平成18年度			
神戸国際教養学科	4	40	—	160	学士 (国際教養学)	1.32	平成18年度			
史学科	4	60	—	240	学士 (歴史学)	1.10	昭和44年度			
教育学科	4	165	—	660	学士 (教育学)	1.16	昭和44年度			
健康福祉学部 社会福祉学科	4	80	—	320	学士 (社会福祉学)	1.04	平成18年度	兵庫県神戸市中央区 港島中町4丁目7番 2号		
健康スポーツ栄養学科	4	60	—	240	学士 (栄養学)	0.93	平成21年度			

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	家政学部 家政学科	4	80	—	320	学士 (家政学)	1.13 1.29	昭和41年度	兵庫県神戸市須磨区 東須磨青山2番1号		
	管理栄養士養成課程	4	140	3年次20	600	学士 (栄養学)	1.05	昭和43年度			
	大学の名称	神戸女子短期大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍					
	総合生活学科	2	150	—	300	短期大学士 (総合生活学)	0.77	平成8年度	兵庫県神戸市中央区 港島中町4丁目7番 2号		
	食物栄養学科	2	140	—	280	短期大学士 (食物栄養学)	0.95	平成8年度			
	幼児教育学科	2	100	—	200	短期大学士 (幼児教育学)	1.08	昭和30年度			
附属施設の概要		名称：ハワイセミナーハウス 目的：国際交流の推進 所在地：1720 Young St. Honolulu 96826 Hawaii U.S.A 設置年月：平成元年6月14日 規模等：土地683.65m ² 、建物1,074.50m ²									

学校法人吉学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸女子大学				→	神戸女子大学				
家政学部					家政学部				
家政学科	80	—	320		家政学科	80	—	320	
管理栄養士養成課程	140	3年次 20	600		管理栄養士養成課程	140	3年次 20	600	
文学部					文学部				
日本語日本文学科	60	—	240		日本語日本文学科	60	—	240	
英語英米文学科	60	—	240		英語英米文学科	60	—	240	
神戸国際教養学科	40	—	160		神戸国際教養学科	40	—	160	
史学科	60	—	240		史学科	60	—	240	
教育学科	165	—	660		教育学科	165	—	660	
健康福祉学部					健康福祉学部				
社会福祉学科	80	—	320		社会福祉学科	80	—	320	
健康スポーツ栄養学科	60	—	240		健康スポーツ栄養学科	60	—	240	
看護学部					看護学部				
					看護学科	80	—	320	学部の設置 (認可申請)
計	745	20	3020		計	825	20	3340	
神戸女子大学大学院				→	神戸女子大学大学院				
家政学研究科					家政学研究科				
食物栄養学専攻 (M)	8	—	16		食物栄養学専攻 (M)	8	—	16	
生活造形学専攻 (M)	6	—	12		生活造形学専攻 (M)	6	—	12	
文学研究科					文学研究科				
日本文学専攻 (M)	4	—	8		日本文学専攻 (M)	4	—	8	
英文学専攻 (M)	4	—	8		英文学専攻 (M)	4	—	8	
日本史学専攻 (M)	4	—	8		日本史学専攻 (M)	4	—	8	
教育学専攻 (M)	4	—	8		教育学専攻 (M)	4	—	8	
計	30		60		計	30		60	
家政学研究科					家政学研究科				
食物栄養学専攻 (D)	2	—	6		食物栄養学専攻 (D)	2	—	6	
生活造形学専攻 (D)	2	—	6		生活造形学専攻 (D)	2	—	6	
文学研究科					文学研究科				
日本文学専攻 (D)	2	—	6		日本文学専攻 (D)	2	—	6	
英文学専攻 (D)	2	—	6		英文学専攻 (D)	2	—	6	
日本史学専攻 (D)	2	—	6		日本史学専攻 (D)	2	—	6	
教育学専攻 (D)	2	—	6		教育学専攻 (D)	2	—	6	
計	12		36		計	12		36	
神戸女子短期大学				→	神戸女子短期大学				
総合生活学科	150	—	300		総合生活学科	120	—	240	定員変更
食物栄養学科	140	—	280		食物栄養学科	140	—	280	
幼児教育学科	100	—	200		幼児教育学科	100	—	200	
計	390		780		計	360		720	

別記様式第2号 (その2の1)

教育課程等の概要																	
(看護学部看護学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	基礎Ⅰ	1前		2		○			3						オムニバス		
	基礎Ⅱ	1後		2		○									兼1		
	基礎Ⅲ	2前		2		○			1								
	女性Ⅰ	1前		2		○									兼1		
	女性Ⅱ	1後		2		○									兼1		
	女性Ⅲ	1前		2		○									兼6 オムニバス		
	女性Ⅳ	1後		2		○									兼1		
	神戸学	1前		2		○									兼7		
	地域学習	1通		2			○				1				オムニバス		
	小計 (9科目)		—	0	18	0	—	—	—	4	0	1	0	0	兼17		
全学共通教養科目	英語	英語Ⅰ-1	1前	1			○								兼2		
	英語Ⅰ-2	1後		1			○								兼2		
	英語Ⅱ-1	1前		1			○								兼2		
	英語Ⅱ-2	1後		1			○								兼2		
	外国語コミュニケーションⅠ	1前		1			○								兼1		
	外国語コミュニケーションⅡ	1後		1			○								兼1		
	教養英語Ⅰ-1	1前		1			○								兼1		
	教養英語Ⅰ-2	1後		1			○								兼1		
	教養英語Ⅱ-1	1前		1			○								兼1		
	教養英語Ⅱ-2	1後		1			○								兼1		
	語学科目(世界の言語)	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ-1	1前		1			○							兼1	
			ドイツ語Ⅰ-2	1後		1			○							兼1	
			ドイツ語会話Ⅰ	1後		1			○							兼1	
			ドイツ語講読Ⅰ	2前		1			○							兼1	
			フランス語Ⅰ-1	1前		1			○							兼1	
			フランス語Ⅰ-2	1後		1			○							兼1	
		フランス語	フランス語会話Ⅰ	1後		1			○							兼1	
			フランス語講読Ⅰ	2前		1			○							兼1	
			初習言語	中国語Ⅰ-1	1前		1			○							兼1
				中国語Ⅰ-2	1後		1			○							兼1
中国語会話Ⅰ				1後		1			○							兼1	
中国語講読Ⅰ				2前		1			○							兼1	
朝鮮語Ⅰ-1		1前			1			○							兼1		
朝鮮語Ⅰ-2		1後			1			○							兼1		
イタリア語		朝鮮語会話Ⅰ	1後		1			○							兼1		
		朝鮮語講読Ⅰ	2前		1			○							兼1		
		イタリア語Ⅰ-1	1前		1			○							兼1		
		イタリア語Ⅰ-2	1後		1			○							兼1		
	イタリア語会話Ⅰ	1後		1			○							兼1			
	イタリア語講読Ⅰ	2前		1			○							兼1			
小計 (30科目)		—	0	30	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9			
情報科目	情報Ⅰ	1前		2			○								兼2		
	情報Ⅱ	1後		2		○									兼1		
	小計 (2科目)		—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼3		

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ウェルネス科目	基礎トレーニング	1前	1					○							兼1
	スポーツと健康の科学	1前		2			○								兼1
	スポーツ実技Ⅰ-1	1後		1				○							兼3
	スポーツ実技Ⅰ-2	2前		1				○							兼3
	スポーツ実技Ⅰ-3	2後		1				○							兼3
	スポーツ実技Ⅰ-4	3前		1				○							兼3
	スポーツ実技Ⅰ-5	3後		1				○							兼3
	スポーツ実技Ⅰ-6	4前		1				○							兼3
	スポーツ実技Ⅰ-7	4後		1				○							兼3
	スポーツ実技Ⅱ-A	1後		1				○							兼1
	スポーツ実技Ⅱ-B	2後		1				○							兼1
	スポーツ実技Ⅱ-C	3後		1				○							兼1
	スポーツ実技Ⅱ-D	4後		1				○							兼1
	小計(13科目)		—	1	13	0			—	0	0	0	0	0	0
全学共通教養科目	人・思想	哲学	1前		2			○							兼1
		宗教	1前		2			○							兼1
	理・人間の心と行動	心理学Ⅰ	1前		2			○							兼1
		心とからだの健康	1後		2			○							兼6 オムニバス
	言葉と文学	言葉と文学Ⅰ	1前		2			○							兼1
		言葉と文学Ⅱ	1後		2			○							兼1 隔年
		言葉と文学Ⅲ	1後		2			○							兼1 隔年
	歴史	歴史Ⅰ	1前		2			○							兼1
		歴史Ⅱ	1後		2			○							兼1 隔年
		歴史Ⅲ	1後		2			○							兼1 隔年
	現代社会	日本国憲法	1前		2			○							兼1
		現代社会Ⅰ	1後		2			○							兼1
		現代社会Ⅱ	1前		2			○							兼1
		現代社会Ⅲ	1後		2			○							兼1
		現代社会Ⅳ	1後		2			○							兼1
	現代社会Ⅴ	現代社会Ⅴ	1前		2			○							兼11 オムニバス
		現代社会Ⅴ	1前		2			○							兼1
	数学	数学Ⅰ	1後		2			○							兼1
		数学Ⅱ	1前		2			○							兼1
	自然と環境	自然と環境Ⅰ	1後		2			○							兼1
自然と環境Ⅱ		1前		2			○							兼1	
芸術	芸術Ⅰ	1前		2			○							兼1	
	芸術Ⅱ	1前		2			○							兼1	
衣・食・住	衣・食・住Ⅰ	1前		2			○							兼2 オムニバス	
	衣・食・住Ⅱ	1後		2			○							兼1	
教養総合科目	教養総合Ⅰ	1前		2			○							兼1	
	教養総合Ⅱ	1後		2			○							兼1	
	教養総合Ⅲ	2前		2			○							兼1	
	教養総合Ⅳ	2後		2			○							兼1	
	教養総合Ⅴ	3前		2			○							兼1	
	教養総合Ⅵ	3後		2			○							兼1	
	教養総合Ⅶ	4前		2			○							兼1	
	教養総合Ⅷ	4後		2			○							兼1	
小計(32科目)		—	0	64	0			—	0	0	0	0	0	0	兼36

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	特別生物	1前		2		○									兼1
	特別化学	1前		2		○									兼1
	生命倫理	1後		2		○									兼1
	発達心理学	1前		2		○									兼1
	医療と法	1後	1			○									兼1
	コミュニケーション論（表現学）	1後		2		○									兼1
	食品学総論	1後		2		○									兼1
	栄養代謝学	2後	1				○								兼1
	フィジカルフィットネス	2後		1			○								兼1
	薬理学	2前	1			○									兼1
	社会福祉・社会保障論	2前	1			○									兼1
	社会福祉・社会活動論	3後	1			○									兼1
	公衆衛生学	1後	1			○			1						
	疫学	2前	2			○			1						
	保健統計学	3後	2			○			1						
	健康相談活動	4後		2		○					1				
	学校保健Ⅱ	3後		1		○					1				
	国際保健	4前		1		○									兼1
	医療英語	4前		1			○								兼1
小計（19科目）		—	10	18	0	—		1	0	1	0	0		兼12	
専門科目	看護学概論	1前		2		○			1						
	生活概論	1前		1		○			2		1				オムニバス
	生活援助論	1後		1			○				1				
	予防看護論	3後		1		○					1				
	看護情報学	3後		1		○			1						
	看護倫理	4後		1		○			4		1				オムニバス
	実践看護論	2前		1		○			1						
	老年看護論	2前		1		○			1						
	老年看護実践方法論	3後		2		○				1					
	在宅看護論	3前		2		○			1		1				オムニバス・共同（一部）
	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ	1前		1			○		2	1	2				オムニバス・共同（一部）
	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	2後		2			○		2	1	2				オムニバス・共同（一部）
	コミュニティ看護実習Ⅰ	1後		1				○	3	1	3	3	2		共同
	コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）	2後		2				○	1	1		1	1		共同
	公衆衛生看護学概論	3前		2		○			1						
	コミュニティケアシステム論	2前		1		○			1		4				オムニバス
	地域看護活動論	3前		2		○					1				
	公衆衛生看護演習	4前			1		○				1				
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	3後		2		○					1				
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	3後		1		○			1						
	公衆衛生看護管理論	4前		1		○			1						
	災害看護	4前		1		○			5	1	1				オムニバス
	学校保健Ⅰ	3後		1		○					1				
	公衆衛生看護活動論実習	4前		2				○	1		2	3	2		共同
	公衆衛生看護管理論実習	4前		1				○	1		1	3	3		共同
小計（25科目）		—	24	10	0	—		8	2	8	4	3		兼0	

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
医療看護分野	人体のしくみと機能Ⅰ	1前	2			○								兼1	
	人体のしくみと機能Ⅱ	1後	2			○								兼1	
	疾病と治療Ⅰ	2前	1			○								兼1	
	疾病と治療Ⅱ	2前	2			○								兼6 オムニバス	
	疾病と治療Ⅲ	2前	2			○								兼1	
	疾病と治療Ⅳ	2前	1			○								兼1	
	感染免疫学	2後	1				○		1						
	医療ケアシステム論	2前	1			○			3					兼1 オムニバス	
	急性期看護論	3前	2			○			1						
	慢性期看護論	3前	2			○					1				
	治療看護論	2前	1				○				1				
	治療療養支援技術演習	3前	1				○		1		2			オムニバス・共同(一部)	
	精神看護論	2前	2			○			1		1			オムニバス	
	こころの健康増進と看護	3後	1			○			1					オムニバス	
	精神看護支援技術演習	2後	1				○		1		1			オムニバス	
	医療看護実習Ⅰ	1前	1					○	2		5	2	4	共同	
	医療看護実習Ⅱ(精神)	2後	2					○	1		1		2	共同	
	医療看護実習Ⅱ(急性期)	3前・後	3					○	2		1		2	共同	
	医療看護実習Ⅱ(慢性期)	3前・後	3					○	1		2	2	4	共同	
小計(19科目)	—	—	31	0	0	—	—	—	5	0	5	2	4	兼9	
専門科目	成育看護分野	疾病と治療Ⅴ	2後	1			○							兼1	
		疾病と治療Ⅵ	2後	1			○							兼1	
		小児看護論	2後	2			○			1					
		小児療養看護論	3前	1			○					1			
		家族看護論	3前	1			○			3		2			オムニバス
		養護概説	2前	2		2	○					1			
		母性看護論	2後	2			○				1				
		女性の健康増進と看護	3前	1			○			1					
		成育看護技術演習Ⅰ	2後	1				○		2	1	2			オムニバス・共同
		成育看護技術演習Ⅱ	3前	1				○		2	1	2			オムニバス・共同
		成育看護実習Ⅰ	1後	1					○	2	1	3	2	1	共同
		成育看護実習Ⅱ(小児)	3前・後	2					○	1		2	1	1	共同
		成育看護実習Ⅱ(母性)	3前・後	2					○	1	1	1	1		共同
		助産学概論	3前	1			○				1				
		助産診断技術論	3後	2			○					1			
		助産診断技術論演習	4前	2				○		1	1	1			共同
助産管理	4前	1			○			1							
助産学実習	4前	8					○	1	1	1	1		共同		
小計(18科目)	—	—	16	16	0	—	—	—	4	1	5	2	1	兼2	
統合看護科目	学びのグループゼミⅠ	1通	1				○		9	2	9			共同	
	学びのグループゼミⅡ	2通	1				○		9	2	9			共同	
	学びのグループゼミⅢ	3通	1				○		9	2	9			共同	
	学びのグループゼミⅣ	4通	1				○		9	2	9			共同	
	課題探究	4通	4				○		8	2	9			※実習、共同	
	総合実習(地域・在宅)	4前	4					○	8	2	9	7	7	共同	
小計(6科目)	—	—	12	0	0	—	—	—	9	2	9	7	7		

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(看護学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教職に関する科目	教職論	1前			2	○								兼1
	教育基礎論Ⅱ	1前			2	○								兼1
	教育心理学Ⅱ	1前			2	○								兼1
	教育社会学	1後			2	○								兼1
	人権教育	3前			2	○								兼1
	教育行政学	1後			2	○								兼1
	教育課程総論	2前			2	○								兼1
	道德教育の理論と実践	1後			2	○								兼1
	特別活動論	1後			2	○								兼1
	教育方法の理論と実践	3前			2	○								兼1
	生徒指導論（栄教・養教）	2後			2	○								兼1
	教育相談	2前			2	○								兼1
	養護実習指導	4前			1		○				1			兼2 オムニバス
	養護実習A	4後			4			○			1			兼2 共同
	養護実習B	4後			2			○			1			兼2 共同
	教職実践演習（養護教諭）	4後			2		○				1			兼2 オムニバス
小計（16科目）		—	0	0	33	—	—	—	0	0	1	0	0	兼9
教職関連科目	特別支援学校体験活動	2後			1			○			1			
小計（1科目）		—	0	0	1	—	—	—	0	0	1	0	0	
合計（190科目）		—	94	173	34	—	—	—	9	2	9	8	7	兼85
学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野						保健衛生学関係（看護学関係）						
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
卒業要件として全学共通教養科目を20単位以上、専門科目を98単位以上（専門基礎科目15単位以上含む）、全学共通教養科目又は専門科目を6単位以上、合計124単位を修得しなければならない。 全学共通教養科目20単位については、語学科目（世界の言語）のうち英語のみで6単位以上、ウェルネスのうち「基礎トレーニング」を含み1単位以上を修得する必要がある。 また、履修科目の登録の上限単位数は原則年間46単位（卒業要件単位に含まない教職科目を除く）とする。 なお、保健師国家試験受験資格を取得するためには、「発達心理学」、「公衆衛生看護演習」、「公衆衛生看護活動論Ⅰ」、「公衆衛生看護活動論Ⅱ」、「公衆衛生看護管理論」、「災害看護」、「学校保健Ⅰ」、「公衆衛生看護活動論実習」、「公衆衛生看護管理論実習」の9科目計12単位を履修する。 また、助産師国家試験受験資格を取得するためには、「生命倫理」、「発達心理学」、「助産学概論」、「助産診断技術論」、「助産診断技術論演習」、「助産管理」、「助産学実習」の7科目計18単位を履修する。						1 学年の学期区分				2期				
						1 学期の授業期間				15週				
						1 時限の授業時間				90分				

授業科目の概要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 共通 教養 科目	基幹 科目 基礎	基礎Ⅰ	<p>大学生としての学び、キャリアマインドの素地をつくるために、看護学部の教育理念と教育目標を理解し、4年間で何をどのように学ぶかをイメージする。またその時に必要とされる基本的な学習方法や態度を学び、学生生活を具体的にデザインする。さらに看護職が活躍している様々な場や看護職の役割を知って、自分自身の将来像を描き、目標を立てる。様々な立場の講師を招き、大学での学び、マナー、情報収集の方法、レポートの書き方等を学び、さらに将来像である看護職としての理解を深めていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 野並 葉子/2回) 看護学部での学びのねらいと看護職の役割や活躍の場について考える。</p> <p>(④ 玉木 敦子/11回) 実践的な大学での学び方の習得、大学の歴史や大学生としてのマナーを学ぶ。</p> <p>(⑦ 宇賀 昭二/2回) 大学生活と自分の将来について考える。</p>	オムニバス方式
		基礎Ⅱ	<p>何のために社会人となり、就職するか。自分が生きていく経済力を身につける、しあわせな家庭を築く、豊かな資産、心地よい環境を手に入れる、人によって様々なニーズがある。一方、自分の側の要求だけでなく、社会の側にも、顧客や取引先、社内や地域の間関係のなかで適切に行動できる人材か、というニーズがある。自分の要求だけでなく、相手のニーズやオファーに応えられる心構えや能力を在学中に身につけておかなければならない。この科目は、学生が自分の将来の見取り図を描き、それを実現する為に必要な基本的学力と技術を習得するためのものである。</p>	
		基礎Ⅲ	<p>具体的就職活動を前に、自らの人生設計と、その中でワークスタイル、仕事の種類と内容など、働くことに関する自己認識を深め、基本的知識を得ることを目標とする。授業前半では、各自の将来一般を考えるために、自己認識を深めるプログラム、さらには、将来どのような仕事に就くかを考えるうえで重要な自らの仕事観、ワークスタイルなどを考える。後半では、具体的にどのような業界、職種があるのかを具体的に紹介しつつ、将来の就職活動の基礎資料を提供する。</p>	
	女性	女性Ⅰ	<p>古くから政治哲学や倫理学では「人間にとって善く生きるとはどういうことか」と問われてきた。しかしこの問いは男性のものであり女性を対象とするものではなかった。それゆえ「女性にとって善く生きるとはどういうことか」はあらためて向き合うべき問いであろう。貧困・暴力・差別にさられることなく、自己決定し、居場所があり、誰かとつながり自己も他者も大切にする一当たり前のことが女性にとって難しく、「善く生きる」ことができないのだとしたらそれはなぜか。女性が「善く生きる」社会とはどんな社会かについて受講生とともに考えていきたい。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教養 科目	基幹 科目	女性	女性Ⅱ	働く女性の数は年々増加し、企業も女性を積極的に登用していると言われている。しかし、女性雇用労働者の中で、非正規の占める割合は正規の割合を上回っており、賃金等の労働条件やキャリア展開においても、男性に比べると格差があり、家族的責任と雇用労働のバランスに悩むのも女性に偏っている。女性雇用労働者の現状と課題解決について理解を深め、学生が自らの働き方や生き方を考えるのに役立つ授業を目指す。	
			女性Ⅲ	<p>「女性」という観点から、健康科学の実際について解説を受け、新しい生命を生む性である女性の精神と身体の特徴および疾患との関連について理解することを目標とする。学内外のメディカル・コメディカル分野の専門の先生方により、それぞれの専門分野における女性の心身の特性に基づく健康のあり方を医学・栄養学・健康社会学を中心にオムニバス講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(35 泉 妙子/1 回) 女性と介護について学ぶ。</p> <p>(36 鈴木 一永/2 回) 女性のための食事学について学ぶ。</p> <p>(63 松本 衣代/6 回) 女性の健康(肥満とダイエット)について学ぶ。また学外のゲストスピーカーより、女性のメンタルヘルス、女性の肥満とがん、女性のリハビリテーション、女性と看護について学ぶ。</p> <p>(37 梶原 苗美/4 回) 女性の健康(生活習慣病と食生活、加齢と健康、サプリメントと健康、女性と飲酒)について学ぶ。</p> <p>(38 平田 耕造/1 回) 女性の健康(生活習慣と冷え性)について学ぶ。</p> <p>(39 栗原 伸公/1 回) 女性と労働衛生について学ぶ。</p>	オムニバス方式
			女性Ⅳ	中世から近代にかけてのヨーロッパの女性たちの営みを紹介し、女性に焦点をあてることによって、男性中心の歴史では表れてこなかったヨーロッパの歴史を再構成する。有名な女性の活躍だけでなく、女性たちの日常生活や心性の変化にも注目する。本講義の目的は過去の女性たちの生きざまを知り考えることをとおして、これからの社会を女性としていかに生きるのかの指針を得ることである。授業形態としては、パワーポイントを使用して映像を見せ、過去の女性たちのイメージをつかみやすくする。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教養 科目	基幹 科目	地域	神戸学	<p>神戸の歴史と文化を習得し、教養を深める。この講義は、「神戸」の豊かな歴史と文化の営みを、多角的な視点から検討しようとするものである。歴史という点からは、古くから知られる神戸・須磨の地域的特性や明治以降の神戸の産業発展、そして中国とのつながりについて、また、文化面では、文学、服飾、料理、住居等多彩な分野に亘って神戸との関わりについて学ぶ。ふだん目や耳にする光景や言葉に込められた、奥深い歴史と文化を感じとってほしい。それには、講義で紹介される関係文献に目を通すことはもちろん、興味をいだいた「場」にぜひ積極的に出かけてもらいたい。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(40 今井 修平／2 回) 歴史からみた神戸の魅力・江戸時代の兵庫津について学ぶ。</p> <p>(49 小沢 康英／3 回) 神戸の産業発展について学ぶ。</p> <p>(50 林 利恵子／1 回) 神戸の食文化について学ぶ。</p> <p>(88 武藤 美也子／2 回) 文学に残る須磨について学ぶ。</p> <p>(51 十一 玲子／2 回) 神戸発祥のファッション・行吉学園にみる服飾教育について学ぶ。</p> <p>(41 梶木 典子／2 回) 神戸のまちづくりについて学ぶ。</p> <p>(52 来海 素存／3 回) 神戸の住文化について学ぶ。</p>	オムニバス方式
			地域学習	<p>学生たちが自主性・社会性・人間性を育て、大人に成長していく「イニシエーション」の過程として位置づける生涯学習のプロセスであり、学習によって自覚的に育った学生たちが、将来それぞれ生きる地域社会の核として貢献することを目標とする。大学内の講義・演習を行わず、学生自らの興味・関心にもとづいて、指定した地域社会の行事・活動にボランティアな社会貢献活動として参加する。原則として大学の授業時間外の時間帯及び日程で行い、地域社会の行事・活動（学校・施設等を含む）に 15 回以上参加する。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教養科目	語学科目 (世界の言語)	英語	英語 I - 1 This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor. 本クラスは、受講生が、将来、様々な会話の状況に自信を持って対応できるようになることを念頭に置いて、英語の効果的なスピーキングとリスニングの基礎的な力を養うことを目的とする。実際の授業では、学生の全般的な英語のコミュニケーション能力を向上するために、英語の語彙力、正確さ、会話力、発音、聴解力に力点を置いた、学生に十分な練習機会を与える内容を盛り込む。本クラスは、将来、様々な社会的な文脈や状況において英語でうまく対応できるように、大学生にふさわしいトピックを教材として扱う。講師の指示で、小テスト、クイズ、ホームワークを適宜、行う。	
		英語 I - 2	This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor. 本クラスは、受講生が、将来、様々な会話の状況に自信を持って対応できるようになることを念頭に置いて、英語の効果的なスピーキングとリスニングの基礎的な力を養うことを目的とする。実際の授業では、学生の全般的な英語のコミュニケーション能力を向上するために、英語の語彙力、正確さ、会話力、発音、聴解力に力点を置いた、学生に十分な練習機会を与える内容を盛り込む。本クラスは、将来、様々な社会的な文脈や状況において英語でうまく対応できるように、大学生にふさわしいトピックを教材として扱う。講師の指示で、小テスト、クイズ、ホームワークを適宜、行う。	
		英語 II - 1	英語のリスニング、リーディング、スピーキングをそれぞれ総合的にレベルアップしながら、現代社会についてより広い知識と視野を身につけることを目指す。世界中の様々な文化や生活、あるいは野生動物、地球環境など現在の我々を取り巻くトピックを取り上げて、英文のリーディングだけでなく、DVDを通して、リスニング能力も強化する。またそれらをテーマとしている映画を補助教材として用いる。学生の授業内での積極的な参加を期待する。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目 語学科目 (世界の言語) 英語	英語Ⅱ-2	<p>英語のリスニング、リーディング、スピーキングをそれぞれ総合的にレベルアップしながら、現代社会についてより広い知識と視野を身につけることを目指す。世界中の様々な文化や生活、あるいは野生動物、地球環境など現在の我々を取り巻くトピックを取り上げて、英文のリーディングだけでなく、DVDを通して、リスニング能力も強化する。またそれらをテーマとしている映画を補助教材として用いる。学生の授業内での積極的な参加を期待する。</p>	
	外国語コミュニケーションⅠ	<p>The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help speaking and so students will be encouraged to speak as much as possible: this will be done in pair and group work. The course is designed to help students use English in the real working world that they will encounter when they leave University.</p> <p>本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスである。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身につけた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授する。</p>	
	外国語コミュニケーションⅡ	<p>The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help speaking and so students will be encouraged to speak as much as possible: this will be done in pair and group work. The course is designed to help students use English in the real working world that they will encounter when they leave University.</p> <p>本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスである。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身につけた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授する。</p>	
	教養英語Ⅰ-1	<p>本講義では英文講読の基礎力をつけ、英語を楽しく読む習慣を養うことを目標とする。英語で書かれた詩、俳句、エッセイ、ジョーク、短編、演説、名言、様々な英語を読むことを通して、英語の美しいリズムにふれ、英語という言語の構造を理解し、日本語の世界とは異なった英語の世界の具体性、論理の明瞭性を味わい、英語を読む喜びを体験する。最終的には英語を読むことを通して、大学生としての幅広い教養を身につけ自己発見の旅をする習慣を体得する。このコースを受講して、教養としての英語の世界を楽しく旅しましょう。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目	英語	教養英語Ⅰ－２	本講義では英文講読の基礎力をつけ、英語を楽しく読む習慣を養うことを目標とする。英語で書かれた詩、俳句、エッセイ、ジョーク、短編、演説、名言、様々な英語を読むことを通して、英語の美しいリズムにふれ、英語という言語の構造を理解し、日本語の世界とは異なった英語の世界の具体性、論理の明瞭性を味わい、英語を読む喜びを体験する。最終的には英語を読むことを通して、大学生としての幅広い教養を身につけ自己発見の旅をする習慣を体得する。このコースを受講して、教養としての英語の世界を楽しく旅しましょう。	
		教養英語Ⅱ－１	英文講読を通して英語世界の有様を深く味わい、教養としての英語を身につける。現代社会にあって英語のコミュニケーション能力・実的な運用能力を高めることは必要不可欠なことだが、しばし激しい時の流れに逆らって、英語という言葉を通して英語世界が産み出した価値観やものの感じ方にゆったりと深く浸ること、これもとても大切なことである。この授業では音楽詩、短編、エッセイ、宣伝文句等の興味をそそる教材を取り上げ、そこに出現した世界を探訪する。自らのうちにあるものと比較してそれがどのように異なりいか様に類似しているのかを考える。	
		教養英語Ⅱ－２	英文講読を通して英語世界の有様を深く味わい、教養としての英語を身につける。現代社会にあって英語のコミュニケーション能力・実的な運用能力を高めることは必要不可欠なことだが、しばし激しい時の流れに逆らって、英語という言葉を通して英語世界が産み出した価値観やものの感じ方にゆったりと深く浸ること、これもとても大切なことである。この授業では音楽詩、短編、エッセイ、宣伝文句等の興味をそそる教材を取り上げ、そこに出現した世界を探訪する。自らのうちにあるものと比較してそれがどのように異なりいか様に類似しているのかを考える。	
	初習言語	ドイツ語Ⅰ－１	ドイツ語・ドイツ文化に興味関心を持つことを到達目標とする。ドイツ語を初めて学ぶ人達を対象に、「発音」・「文法」・「会話」の基礎を学ぶ。映画やビデオでドイツの民衆文化や音楽なども紹介し、ドイツ語の世界の理解と興味を深める。授業計画として、アルファベット、発音練習、あいさつ、人称代名詞(敬称と親称)、名詞の性、定冠詞と不定冠詞、体の名前、命令形、話法の助動詞等を様々な場面に応じて学び、最後に復習とまとめを予定している。	
		ドイツ語Ⅰ－２	簡単なドイツ語の日常会話を理解することを到達目標とする。「ドイツ語Ⅰ－１」に引き続き、ドイツ語の「発音」・「文法」・「会話」の基礎を学ぶ。ビデオ教材を使用して、ドイツ語の世界の更なる理解と興味を深め、簡単な日常会話ができることを目指す。授業計画として、話法の助動詞、未来の用法、分離動詞、非分離動詞、分離動詞の疑問文、過去人称変化・現在完了形等を様々な場面に応じて学び、最後に復習とまとめを予定している。	
		ドイツ語会話Ⅰ	ドイツ語の基本的な文章を復習しながら、実践的なドイツ語会話の習得を到達目標とする。ドイツ語の理解を更に深め、視聴覚教材を使用しながら、実際にドイツで使われている会話を肌で感じ取り、自分で使いこなせるようにする。授業計画として、遠足、旅行の計画、美容院、お祭などのイベント、ショッピング、外食、季節行事、料理、交友関係等の日常生活における様々な場面を想定し、実践的にドイツ語を学び、会話における表現力を養う。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教養科目 語学科目 (世界の言語) 初習言語	ドイツ語講読 I	これまでに学んだドイツ語の文法とドイツ語読解力を高めることを到達目標とする。ドイツ語の理解を更に深め、比較的読みやすい内容の読み物を教材に、これまでに学んできた文法等を網羅的に再確認しながら、ドイツ語の文章を読む力を身につける。グリム童話の中から、学生たちの興味があるものを選び出し、一緒に読んでいく。ゆっくりと、文法の基本的なところや、語彙の説明などもしていきながら、受講生皆が楽しめる授業にしていく。	
	フランス語 I-1	フランス語初心者がフランス語の正しい発音、簡単な日常会話を習得し、フランスの文化についての基本的な知識を身につけることを目標とする。初めてフランス語を学ぶ人を対象とし、簡単な会話をしたり、短い文章を理解したりできるようになるよう、ゆっくりと授業を進める。具体的には、基本となる文法や表現をわかりやすく解説しながら、フランス人とコミュニケーションをとる時に必要なフレーズをペアやグループ練習を通して身につけていく。フランスの文化(料理、美術、演劇、映画、音楽など)やフランス人の生活についても紹介する。	
	フランス語 I-2	前期にひきつづき、フランス語の正しい発音、簡単な日常会話を習得し、フランスの文化についての基本的な知識を身につけることを目指す。初めてフランス語を学ぶ人を対象とし、簡単な会話や短い文章の理解ができるようになるよう、ゆっくりと授業を進める。具体的には、基本となる文法や表現をわかりやすく解説しながら、フランス人とコミュニケーションをとる時に必要なフレーズをペアやグループ練習を通して身につけていく。フランスの文化(料理、美術、演劇、映画、音楽など)やフランス人の生活についても紹介する。	
	フランス語 会話 I	フランス語の基礎を固めつつ、さらにレベルアップした語学力を身につける。会話を中心にボキャブラリーを増やし、理解と表現の幅を広げることを目標とする。前期の「フランス語 I-1」で学んだことを復習しながら、さらに確実なフランス語力が身につくように授業を進める。日常生活で出会う様々な場面をとりあげた会話文を使って、文法や表現を学び、使えるボキャブラリーを増やしていく。ペアやグループでの会話練習も行う。また、フランス文化(料理、美術、演劇、映画、音楽など)やフランス人の生活についても学ぶ。	
	フランス語 講読 I	フランス語の基礎を身につけたうえで、それをより確かなものとし、さらにレベルアップした語学力を、とくに読解力に重点を置きながら養っていく。具体的には、フランス文化や社会、芸術に関する、ある程度まとまった文章を読んで、正しく理解できるように文法や表現を学び、さらにそれに関する質問に答えたり、感想を書いたりする訓練も行う。また、フランス文化に関する様々な知識も学び、異文化交流について問題意識ももてるようにする。	
	中国語 I-1	中国語の骨組みを習得する。テキストをもとに、「聞く・話す・読む・書く」の技能全体をバランスよく学習する。CD・ビデオなどを利用し、口頭練習など、受講生の積極的参加を前提とする。文法面では、全体の見通しを第一とし、細部は「中国語 I-2」に委ねる。具体的には、中国語の発音表記とアクセントに習熟し、正確に発音できるよう繰り返し練習を行う。その上で基礎文法を学習し、基本的な会話及びヒアリングの能力を身につけていく。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目	語学科目 (世界の言語)	初習言語		
		中国語 I - 2	「中国語 I -1」で習得した骨組みに肉付けを施す。「中国語 I -1」で省いた文法知識を補うとともに、単語面でも充実を図る。4技能(聴く・話す・読む・書く)のバランスをとること、CD・ビデオの利用などの視聴覚教材は「中国語 I -1」と変わらない。既習の発音、文法事項を復習しながら、いっそう高度な中国語の表現を学習する。単語力をつけて、会話及びヒアリングの訓練を重ね、総合的な力を養う。	
		中国語会話 I	中国語であいさつを交わしたり、簡単な日常会話ができるようにする。徐々に語彙力を高め、新しい文法事項を学びながら、実際にそれを運用することのできる会話能力を養う。あいさつなどのやさしい会話から始め、身近な話題を取り上げて、それに関連する表現を学ぶ。話すことと聞くことを中心に授業を進める。その他、映像教材などを使って、中国の町や文化遺産、人々の生活や風習などを紹介し、中国文化への理解を深める。	
		中国語講読 I	「中国語の文章を、自分で辞書を引くことにより翻訳できるようになること」と、「文脈を把握して、適切な翻訳ができるようになること」とを到達目標とする。受講生が順番に朗読の上、自分が書いた翻訳文を発表する。その翻訳文について全員でその正否等について討論することにより、理解を深める。中国語から日本語へ単語を機械的に置き換えるだけでなく、言葉の意味を文脈の中で考える態度を養う。短い文章から始めて、しだいに比較的長い文章も読解できるようになることを目指す。	
		朝鮮語 I - 1	読解(読む・書く)を中心とする初習朝鮮語の学習に欠かせない母音字と子音字の組み立て、文章の構造、用言の活用などの文法事項の理解に重点を置く。辞書の引き方を習得し、単語の学習、初歩的な文章の翻訳、簡単な文章の作文を行う。初歩的な「読む」「書く」の能力を身につけ、基本的な文章の構造を理解できるようになる。学習を通じて人間関係を形成する力を養い、国際性及び異文化・多様性を理解する力の習得も目指す。学生が積極的に参加する授業を行い、教科書に沿って進めて行く。語彙を集中的に学習し、翻訳や作文に繋がるように指導する。	
		朝鮮語 I - 2	「朝鮮語 I -1」に続き、簡単な作文と基礎的な日常会話ができること、また作文能力の向上と正しい発音の練習を行い、韓国ドラマ等も取り入れ、韓国の社会・文化に対する体験的な理解を目指す。初習朝鮮語の学習に欠かせない母音字と子音字の組み立て、文章の構造、用言の活用等の文法事項の理解に重点を置く。これまでの復習をしながら、学習を通じて人間関係を形成する力を養い、国際性及び異文化・多様性を理解する力の習得も目指す。学生が積極的に参加する授業を行い、教科書に沿って進めて行く。語彙を集中的に学習し、翻訳や作文に繋がるように指導する。	
朝鮮語会話 I	会話を中心とする初習朝鮮語の学習に必要な平音・激音・濃音・鼻音・流音の正確な発音、連音化に伴う様々な発音の変化を学習する。正確な発音の習得に基づいて、会話文を習い、初歩的な日常会話の能力を身につけることに重点を置く。学習を通じて人間関係を形成する力を養い、国際性及び異文化・多様性を理解する力の取得も目指す。教科書を中心に学生が積極的に参加する授業を行う。必要に応じて視聴覚教材も活用する。韓国語と日本語の酷似性を生かして、簡単に朝鮮語の会話になじむことができるように指導する。			

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目	語学科目 (世界の言語)	初習言語 朝鮮語講読 I	これまでの学習した内容を基にして「読む・書く」技能に重点を置きながら、主に朝鮮語のエッセイや短文を取り上げて読解し、内容と関わる文法事項を並行して学習する。さらに作文能力を身につけるため、熟語と文型、そして漢字語の学習をするとともに、最終的にはスピーチの原稿を書き、コンテストを行う。熟語と文型・漢字語の学習を行い、単文の読解力と作文能力を身につける。学習を通じて人間関係を形成する力を養い、国際性及び異文化・多様性を理解する力の習得も目指す。学習者が主体となって読解ができるように指導し、熟語や文型に基づいて作文をする。	
		イタリア語 I-1	初めてイタリア語を学ぶ人を対象に、イタリア語の発音の基礎を学び、イタリア語の音に親しみながら、挨拶や自己紹介など簡単なコミュニケーションができることを目指す。授業では、視聴覚資料を使ってイタリア語の会話を繰り返し耳にし、ペアやグループで何度も発話練習する。また、教科書の会話に出てくるフレーズを元に文法を学び、様々なシーンに応じて使いこなせるようにする。イタリア文化についても知見を広めてもらえるよう毎回の授業で何か一つテーマを取り上げて紹介していく。	
		イタリア語 I-2	「イタリア語 I-1」で学んだことをさらに発展させ、日常生活や旅先で起こりうるシチュエーションを想定して、使える語彙や表現を増やすことを目指す。授業では、視聴覚資料を使ってイタリア語の会話を繰り返し耳にし、ペアやグループで何度も発話練習する。また、教科書の会話に出てくるフレーズを元に文法を学び、様々なシーンに応じて使いこなせるようにする。イタリア文化についても知見を広めてもらえるよう毎回の授業で何か一つテーマを取り上げて紹介していく。	
		イタリア語 会話 I	イタリア語の基礎的な構造を習得した人を対象に、さらなる基礎固めと応用を目指す。授業では、視聴覚資料を使ってイタリア語の会話を繰り返し耳にし、ペアやグループで何度も発話練習する。また、教科書の会話に出てくるフレーズを元に文法を学び、様々なシーンに応じて使いこなせるようにする。イタリア文化についても知見を広めてもらえるよう毎回の授業で何か一つテーマを取り上げて紹介していき、理解を深めていく。	
		イタリア語 講読 I	イタリア語の基礎的な構造を習得した人を対象に、さらなる基礎固めと応用を目指す。授業では、視聴覚資料を使ってイタリア語の会話を繰り返し耳にし、ペアやグループで発話練習する。また、教科書の会話に出てくるフレーズを元に文法を学び、少しまとまった文書を読むことにつなげていく。イタリア文化についても知見を広めてもらえるよう毎回の授業で何か一つテーマを取り上げて紹介していき、理解を深めていく。	
	情報科目	情報 I	情報通信（インターネット、電子メール、SNS）の活用を通じ、情報伝達の方法を学習する。インターネット犯罪やSNS上でのトラブルが増加する昨今、現代社会の問題を解決するには、関連する情報の処理だけではなく、それに基づく決断が求められる。普段から培われた社会常識や人間性に対する理解も必要となる。そこで表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の活用方法について学習すると共に、情報倫理、モラル、ネットワーク利用エチケットやセキュリティについても学習する。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教養科目	情報科目 情報Ⅱ	本講義では、パソコンの操作方法・利用法、役割・機能及び情報の利用、情報モラルなどに関わる基礎的な知識を身につける。社会に広く普及しているワープロソフト及びプレゼンテーションソフトを用い、ビジネス文章などの作成に必要なワープロ操作技術を身につけるとともに、発表の準備から本番までの活用方法を学ぶ。また、インターネットの基本的な仕組みやサービスの知識、利用する時に注意すべきこと等、ネットワークや情報倫理について概説し、コンピュータを扱う上で身につけておくべき基礎的事項を学習する。	
	ウェルネス科目 基礎トレーニング	個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動を実施し、実施上の注意点を実技を通して説明するとともに指導法を学ぶ。個人の健康は自発的な健康志向に委ねられている。個人の能力に応じた活動力を生み出す機能を適応といい、健康はその良き状態であり、体力はそれを支える能力である。本講では、この適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に亘って楽しみながら行えるよう、その基礎づくりを行うものである。また、フィットネスの考え方やその方法などもマスターする。	
	スポーツと健康の科学	今日の健康に関わる諸問題について、健康の維持・増進を図る上でのスポーツ、身体活動、生活行動のあり方について理解する。日本経済の高度成長と共に科学技術が進歩し、日常生活が豊かになり便利になってきたが、その豊かさの反面、運動不足から起こる生活習慣病、体力の低下等、健康に関する様々な問題が生じている。健康の維持には「適度な運動」と「適度な栄養」などが必要とされている。将来健康に直接携わっていくであろう女子大生にとって「健康」の問題は真剣に考えなければならないものであるため、女性とスポーツにスポットを当て展開し考察を試みたい。	
	スポーツ実技Ⅰ-1	プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる基礎的な技術やルール・マナーなどを身につける。 スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のもをを活用する。	
スポーツ実技Ⅰ-2	プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる基礎的な技術やルール・マナーなどを身につける。 スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のもをを活用する。		

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目	ウェルネス科目	スポーツ実技 I-3	<p>プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる基礎的な技術やルール・マナーなどを身につける。</p> <p>スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のもをを活用する。</p>
	スポーツ実技 I-4	<p>プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる基礎的な技術やルール・マナーなどを身につける。</p> <p>スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のもをを活用する。</p>	
	スポーツ実技 I-5	<p>プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる基礎的な技術やルール・マナーなどを身につける。</p> <p>スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のもをを活用する。</p>	
	スポーツ実技 I-6	<p>プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる基礎的な技術やルール・マナーなどを身につける。</p> <p>スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のもをを活用する。</p>	
	スポーツ実技 I-7	<p>プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる基礎的な技術やルール・マナーなどを身につける。</p> <p>スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のもをを活用する。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目	ウェルネス 科目	スポーツ実技Ⅱ-A	技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルにあった指導がなされるので誰でも受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。	
		スポーツ実技Ⅱ-B	技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルにあった指導がなされるので誰でも受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。	
		スポーツ実技Ⅱ-C	技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルにあった指導がなされるので誰でも受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。	
		スポーツ実技Ⅱ-D	技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウェルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルにあった指導がなされるので誰でも受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。	
一般科目	人と思想	哲学	科学技術の発達は人間社会に多大な便益をもたらし、人間の福祉に大いに貢献したが、二つの大戦を経た今日においては、人類の生存基盤そのものをも脅かすものになっている。今や、私たちはこれまでの生き方を改める必要があるのではないかと問われている。これは、人間はいかに生きるべきかという哲学的な問いであり、科学技術の華々しい成果と比べると、目立たないものだとしても、避けることのできない問いである。古代ギリシア以来、哲学はよりよく生きることを求めてきた。それは今日においても変わらない。	
		宗教	宗教は人々に自分の生き方を真摯に見つめ、ときには生き方を改めることを求めてきた。また、死後はどうなるのかという問いに、宗教は回答を用意することで、人々に安心と安定を与えてきた。しかし、現代人にとって、宗教の教えをそのまま信じることはかなり困難になっている。そうした現状での宗教の果たす役割は何かについて考える。また、宗教は差別、迫害、戦争などの原因となって、多くの犠牲者を出してきた。宗教が否定的な結果をもたらした事例を取り上げ、なぜそうしたことが起こるのかについても考察する。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教養科目	一般科目	人間の心理と行動	心理学Ⅰでは、「自分を知る」ことから始める。生活の中に点在する心理学的知見をひとつずつ学びながら、それらが点から線へ、面へとつながるよう、理論とワークショップとを組み合わせながら学んでいく。身近な経験に視点を当て、自分と人との観察し、肯定的な認知ができるように学習を重ねる。自分を知ることによって、自分以外の人の知覚・感覚に対する想像力を身につけ、ストレスマネジメントや自己覚知への入門となることを目標とする。	
		心とからだの健康	「心」と「からだ」の健康について、心身相関の視点を学びながら幅広い知識を習得することを到達目標とする。近年、いわゆる「健康」への関心が高まっている。一般に「健康」というとき、「からだ」の健康と「心」の健康という二つの面に分けて考えられることが多い。しかし、この二つの側面は互いに密接な関係がある。そこで、本講では、「心身相関」の視点をキーワードに、専門領域を異にする複数の教員によるオムニバス形式の講義を行うことで、「健康」を様々な側面から捉え理解を深めていく。 (オムニバス方式／全15回) (53 重福 京子／4回) からだの健康とスポーツについて学ぶ。 (59 松浦 紀美恵／3回) からだの健康と栄養について学ぶ。 (35 泉 妙子／2回) からだの健康と食環境について学ぶ。 (43 前田 研史／2回) 心の健康とからだの健康について学ぶ。 (60 下司 実奈／2回) 心の健康について学ぶ。 (27 狩野 恭／2回) 心とからだの関係について学ぶ。	オムニバス方式
	言葉と文学	言葉と文学Ⅰ	日本の文学作品に触れながら、読解力・理解力及び日本語表現力の向上につとめるとともに、受講者が日本独自の文化や思想について考えるきっかけを得ることを目指す。具体的には、まず文学史に沿って日本文学を概観し、上代から現代に至るまでの、地元(神戸や須磨)にゆかりの作品を取りあげて解説し、実際に作品の一部を読む。中世・近世期に関しては、各種の語り物、能楽や人形浄瑠璃・歌舞伎等も取り扱い、音声・映像資料等も参照しながら講義を進める。資料の調べ方やレポートの書き方等、基本的な事柄についても解説し、毎回短い文章を書く練習をする。	
		言葉と文学Ⅱ	将来、看護を専門職とする学生諸姉にとって、専門知識・技能の習得は言うまでもないが、幅広い教養と豊かな人格形成もまた必須である。看護職とは脆弱性を抱えた人々に日々接する仕事であり、畢竟「人間力」なるものが強く求められるからである。本授業ではアメリカ文学の映像作品を題材に、その名場面・名セリフからアメリカ文学全般への教養を深めつつ、言葉および芸術作品の持つ力について学んでいく。各授業で1作品ずつ扱う。作家・作品についての知識を身につけると同時に、各自の作品解釈を自身の言葉で表現することを重視する。	隔年

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教養科目	一般科目	言葉と文学Ⅲ	大学生の読書経験が豊かとは言い難くなっている今日、イギリス文学の古典を味わうことを通して、イギリス文学・文化の面白さを考えたい。イギリスの文学を概観するのではなく、二つの小説に集中して授業を行う。扱う小説はブロンテ姉妹の「ジェイン・エア」と「嵐が丘」である。実際に小説を読み、時代や思潮を具体的に考察していき、同時に普遍的な問題である「人はどう生きるべきか」という問題をみなさんと一緒に考えていければと思う。毎回、授業内容についての短いコメントを提出し、授業への参加度をチェックする。	隔年
		歴史	歴史Ⅰ	現代社会に生きる女性として必要なものの見方や考え方を女性史の視点から学ぶことを目標とする。原始から近代社会を生きた女性の生活文化を中心にして、文字・絵画・考古史料を紹介しながら各時代に特徴的な女性像を出来るだけ具体的に提示し、先人の歩んできた道が自分へと繋がっていることを示していきたい。私たちが享受している法的社会的権利や生活文化習慣が、どのような歴史的変遷を経て今日まで伝えられてきたのかを知ることは、現代日本女性の在り方をより深く理解する糧となることを学ぶ機会としたい。
		歴史Ⅱ	前近代の中国・朝鮮にとって死活的な外敵は北方の草原地帯の遊牧騎馬民であり、日本の存在は大きくはなかった。そして、最後の中国王朝＝清朝が北方民族の満州人によって樹立されたことが、現代中国の民族問題にも反映している。つまり、中国北方の遊牧騎馬民について学ぶことは、中国史・韓国史の理解・東アジア史における日本の位置づけ・現代中国への認識も深めることになる。以上のような目的を踏まえて、中国北方の遊牧騎馬民について時系列的に講義形態で授業を行う。その際、DVD等の視聴覚教材も利用する予定である。	隔年
		歴史Ⅲ	フランス革命から第一次世界大戦に至る西洋近代の歴史を概観する。民主主義、市民権、国民意識、資本主義といった現代社会を構成している政治・経済・社会の枠組みは、この時代のヨーロッパで生まれた。本講義では、歴史の大きな流れを概観するだけでなく、衣食住などの日常生活の在り方にも即して考察する。到達目標は、近代ヨーロッパ史の基本的な知識を習得し、それをもとに現代をいかに生きるかの指針を得ることである。	隔年
	現代社会	日本国憲法	学生が日本国憲法についての基本的知識を獲得し、またこれと並行して、法的思考を培いながら現代社会を見る眼を養うことを、学修上の到達目標とする。「国家と法」「憲法の意味・分類」「日本国憲法の成立過程と特質」等について講義した後、日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「象徴天皇」「権力の分立（国会、内閣、裁判所）」「地方自治」「平和主義」「憲法の保障と改正」等）について解説するが、学生が主体的に問題を発見し、その問題について分析的に考察する力を身につけることができるよう授業方法の工夫に留意する。	
	現代社会Ⅰ	普段の何気ない生活。私たちはおよそ法など意識せずに過ごしている。だが、それは私たちが呼吸するとき空気の存在を意識することなどないことに似ている。意識の有無はどうかあれ、私たちは法なしには一時も生活できない、法の世界の住人なのである。少々びっくりするかもしれないが、これは紛れもない事実であり、この事実を皆さんに認識してもらい、法の世界の住人に相応しい知識を伝えることが、この授業の目的である。その昔、法に精通することは紳士 (gentleman) の条件だった。今の世の中、当然、法に精通することは紳士ばかりでなく、淑女 (lady) の条件ともなる。		

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教養科目	一般科目	現代社会	現代社会Ⅱ 現代日本が抱える経済的諸問題について、時事的な話題も交えて講義する。戦後の日本経済は大きな発展を遂げたが、戦後数十年の経済発展の間に確立した経済社会の枠組みは、近年のグローバル化・少子高齢化の進展や経済の低成長のなかで変化が顕著となってきている。大きな環境変化に対して、日本経済の構造改革への取り組みが進んでいるが、その成果は必ずしも十分なものとはなっていない。日本の産業構造や企業・政府の役割など基本的な枠組みを解説すると共に、環境変化のなかで生じる動向や課題について考えていく。	
		現代社会Ⅲ	冷戦終焉以後、戦争の性質は大きく変化したと言われる。現代の戦争の特徴は一般市民の犠牲の増大にある。それは特に女性や子供への被害など人権侵害の深刻化を意味している。これに対して現在、国際人道法の発展、国際刑事裁判所の設立、国連を中心とした人間の安全保障や戦時性暴力への関心の高まりなど、暴力を最小化するための理論的・実践的努力が為されている。本講義では政治思想史の観点から現代の戦争の「新しさ」について理解し、その上で戦争の暴力に対するグローバルな取り組みを多面的に検討することで、現代社会が抱える諸問題に接近したい。	
		現代社会Ⅳ	古来より日常生活と政治は密接なかわりを持つが、近年のグローバル化する世界とともに複雑化する現代社会において、その関係はますます見えにくいものとなっている。そのような社会を生きるわたしたちには、出来事や情報を多角的に読み解くための複眼的な視野を持つことがより一層求められている。本講義においては、テレビや新聞などで取り上げられる事件や出来事を検討することで、広い視野から現在進行している事態の意味を把握し、社会や世界で起こる出来事を自分自身の問題として捉え直すことのできる思考力を養うことを目標とする。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目	一般科目 現代社会	現代社会Ⅴ 自分たちの身近な生活に隠れた様々な福祉課題に目を向け、ライフサイクルの視点から、福祉課題及びこれからの少子高齢社会のあり方について、考察できるようになることを目標とする。 本講義では、社会福祉学科の教員が、それぞれの専門領域—たとえば、高齢者介護・福祉、障がい児者福祉、児童福祉、精神保健福祉、国際社会福祉、社会政策など—の観点から、少子高齢社会を多角的に論じることにより、現代社会の実像を教授することを主たる目的としている。 (オムニバス方式/全15回) (54 清水 弥生/1回) オリエンテーションを行う。 (55 津田 理恵子/2回) 高齢者の生きがい・まとめについて学ぶ。 (29 松崎 喜良/2回) 高齢者の生活問題・青年問題について学ぶ。 (56 眞野 典子/2回) アルコール問題・高齢者虐待について学ぶ。 (57 曾田 里美/1回) 子ども家庭福祉について学ぶ。 (35 泉 妙子/1回) 高齢者を支える仕組みについて学ぶ。 (60 下司 実奈/1回) 聴覚障害者の文化について学ぶ。 (46 植戸 貴子/2回) 障がい者福祉・ソーシャルインクルージョンについて学ぶ。 (45 小笠原 慶彰/1回) 地域福祉について学ぶ。 (47 横山 正子/1回) 子育てと介護の担い手について学ぶ。 (58 木村 あい/1回) ボランティアとしての福祉活動について学ぶ。	オムニバス方式
	数学	数学Ⅰ 私たちの身の回りには、あらゆるところに数学が潜んでおり、その数学を通して、社会的なつながりをもったり、日常を過ごしたりしている。この授業では、数学の文化的、歴史的にまつわる物語や、大学入学までに触れた算数や数学の知識を改めて話題として取り上げ、さらには、それら知識を用いることで、数学が身近なものであることを実感し、その知識を獲得していく。また、論理的に物事を考えたり、物事を見る視点を増やしたりなど、数学を知ることによって広がる物事の見方を体験していく。	
		数学Ⅱ 授業においては、私たちの社会活動において得られる様々なデータ集団から有意な情報を抽出するための統計的手法について、基礎となる考え方の理解し、様々な場面で利用できる能力の習得を目標とする。授業は、講義を中心とし、その中に実際的な問題についての演習を取り入れて、多様なレベルの受講者に対応する。授業では、統計学の基盤である確率、確率分布からはじめ、データの整理、主な確率分布、標本と統計量の分布、簡単な推定と検定について取り扱う。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教養科目	一般科目	自然と環境 I	自然現象の中に潜む物理法則を学び理解し、これにより、自らを取り囲む自然環境・現象を科学的視点から分析・探求できる力を習得することを到達目標とする。そのために、授業では「日常生活に体験している現象」についてまず各自が考える時間をとる。各自がひとつおき「解答」を終えた後に教員が「物理学」の視点からの解説を行う。まず自ら考えた後に与えられる解答は受身で学んだ知識とは違い、ある種の感動とともに深い理解へのきっかけになる。取り扱う題材は、力、運動、気体、波動、光、電気、磁気、原子の構造と広い範囲である。	
		自然と環境 II	今日の地球の姿をプレートの動きや地球の長い歴史の中で理解させることを到達目標とする。地質学的時間の概念（相対年代・放射年代・地磁気による編年）について理解し、個体地球の外形、表面の凹凸、内部の構造について学ぶ。さらに、プレートテクトニクスの考え方を踏まえたうえで、海洋底の地形や動き（海洋地殻の生成・拡大・消滅）、弧状列島、地震活動・火山活動、大陸の構成（大陸移動や褶曲山脈の形成）について学ぶ。授業の最後には、試験を実施する。	
	芸術	芸術 I	主に日本と西洋の美術を歴史的に捉え、「美」がどのように表現されてきたかを講義する。そして、日本の美術が西洋美術にどのような影響を与えてきたか、又、逆に西洋美術が近代の日本の美術にどのような影響を与えたのかを学ぶ。視覚的な資料（DVD などの教材）を利用することによって、それらが創られた時代や社会的背景なども探る。それらを基にして絵画、彫刻、そして生活の中の美などに対する理解を深め、また再認識をすることで、日常の生活の中に美を身近に感じられるようになることを目指す。	
		芸術 II	授業は講義形式で行う。テーマは毎年変わるが、基本的には 20 世紀初頭から今世紀に至るポピュラー音楽の歴史を、様式、社会、民族、メディア、テクノロジー、あるいは映像等他領域との関係など、様々な切り口から概観する。講義では多くの音資料、映像資料等を使用する。受講者には過去や異文化に対する想像力や敬意を育んでもらうと同時に、講義内容や授業中に紹介する資料などを出発点として、自らテーマを決めて調べ、考え、最終的にその成果、あるいは経過をレポートとして文章化し、他者に伝えることの大切さを学んでもらう。	
	衣・食・住	衣・食・住 I	食文化は基本的な生活文化であり、あまりにも身近で日常的であるがために、自らの食習慣や食に対する捉え方が当然のことであり普遍的なものであると思いきみがちである。この授業では、具体的な事例を通して異なる食文化の諸相を学びながら、自らの食文化を改めて内省し、比較対照によって自文化を相対化することを試みる。また、食文化の変容や受容の事例を通して、食文化が、実際には固定的なものでも不変のものでもないということを学ぶ。授業はオムニバス形式とし、各分野の専門家を国立民族学博物館及び他大学から外部講師としてお願いしている。 (オムニバス方式／全 15 回) (63 松本 衣代／14 回) アジア太平洋地域の食文化（東アジア、東南アジア）、アフリカの食文化、欧米の食文化について学ぶ。 (37 梶原 苗美／1 回) まとめ	オムニバス方式

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目	一般科目 衣・食・住	衣・食・住Ⅱ ヒトは必要な栄養を基本的には全て食事によって摂取している。食事に含まれる栄養素をバランス良く摂取する事で、生物としてのヒトの健康を維持増進できる事が医学や栄養学の観点から明らかにされてきた。しかし、人としての健康はそれだけで満たされる物ではない。人としての健康を考える時、食事は栄養素以上の意味を持ち、豊かな食生活を送る事で精神的にも社会的にも満たされ、生活の質(QOL)を向上させる。本講義では、人にとって生きる喜びと暮らしの楽しみとなるような食事、且つ健康の維持増進がはかれる食事を提供する方法について考える。	
	教養総合科目	教養総合Ⅰ 文化人類学は、異民族・異文化についての知識を媒介として人間または社会とは何かを考える学問である。人や物が国境を越えて行き来するグローバル化の時代に欠くことのできない視野を文化人類学は与えてくれる。この授業では、文化人類学のものの見方を身につけることを目指し、文化人類学の基本的な視点や研究方法を抑えたいうえで、具体的な事例を挙げながら「人間」「社会」「文化」といった文化人類学が扱う諸分野の理解を深めたい。必要に応じて映像も活用しながら進めていく予定である。	
		教養総合Ⅱ 文化人類学とは、人類誕生から現代に至るまで、人間がはぐぐんできたありとあらゆる「文化」を研究する学問であり、さらに、こうした文化の多様性に対する探求と理解を通して、最終的には「人間とは何か」について考えることを目的としている。この講義では、まず「文化」という概念を把握した上で、異文化との対話の前提となる、自らの文化について考察する。具体的には、日本文化における様々な事象をとりあげていくが、中でも特に、看護学を学ぶ上で欠かせない、死生観に関わることを中心に講義を進めていく。	
		教養総合Ⅲ 文化人類学は、異民族・異文化についての知識を媒介として人間または社会とは何かを考える学問である。人や物が国境を越えて行き来するグローバル化の時代に欠くことのできない視野を文化人類学は与えてくれる。この授業では、文化人類学のものの見方を身につけることを目指し、文化人類学の基本的な視点や研究方法を抑えたいうえで、具体的な事例を挙げながら「人間」「社会」「文化」といった文化人類学が扱う諸分野の理解を深めたい。必要に応じて映像も活用しながら進めていく予定である。	
		教養総合Ⅳ 文化人類学とは、人類誕生から現代に至るまで、人間がはぐぐんできたありとあらゆる「文化」を研究する学問であり、さらに、こうした文化の多様性に対する探求と理解を通して、最終的には「人間とは何か」について考えることを目的としている。この講義では、まず「文化」という概念を把握した上で、異文化との対話の前提となる、自らの文化について考察する。具体的には、日本文化における様々な事象をとりあげていくが、中でも特に、看護学を学ぶ上で欠かせない、死生観に関わることを中心に講義を進めていく。	
		教養総合Ⅴ 文化人類学は、異民族・異文化についての知識を媒介として人間または社会とは何かを考える学問である。人や物が国境を越えて行き来するグローバル化の時代に欠くことのできない視野を文化人類学は与えてくれる。この授業では、文化人類学のものの見方を身につけることを目指し、文化人類学の基本的な視点や研究方法を抑えたいうえで、具体的な事例を挙げながら「人間」「社会」「文化」といった文化人類学が扱う諸分野の理解を深めたい。必要に応じて映像も活用しながら進めていく予定である。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目	一般科目 教養総合科目 教養総合Ⅵ	文化人類学とは、人類誕生から現代に至るまで、人間がはぐぐんできたありとあらゆる「文化」を研究する学問であり、さらに、こうした文化の多様性に対する探求と理解を通して、最終的には「人間とは何か」について考えることを目的としている。この講義では、まず「文化」という概念を把握した上で、異文化との対話の前提となる、自らの文化について考察する。具体的には、日本文化における様々な事象をとりあげていくが、中でも特に、看護学を学ぶ上で欠かせない、死生観に関わることを中心に講義を進めていく。	
	教養総合Ⅶ	文化人類学は、異民族・異文化についての知識を媒介として人間または社会とは何かを考える学問である。人や物が国境を越えて行き来するグローバル化の時代に欠くことのできない視野を文化人類学は与えてくれる。この授業では、文化人類学のものの見方を身につけることを目指し、文化人類学の基本的な視点や研究方法を抑えたうえで、具体的な事例を挙げながら「人間」「社会」「文化」といった文化人類学が扱う諸分野の理解を深めたい。必要に応じて映像も活用しながら進めていく予定である。	
	教養総合Ⅷ	文化人類学とは、人類誕生から現代に至るまで、人間がはぐぐんできたありとあらゆる「文化」を研究する学問であり、さらに、こうした文化の多様性に対する探求と理解を通して、最終的には「人間とは何か」について考えることを目的としている。この講義では、まず「文化」という概念を把握した上で、異文化との対話の前提となる、自らの文化について考察する。具体的には、日本文化における様々な事象をとりあげていくが、中でも特に、看護学を学ぶ上で欠かせない、死生観に関わることを中心に講義を進めていく。	
専門科目	専門基礎科目 特別生物	私たちの体には、様々な細胞、同一の機能と構造とをもつ細胞の集団である組織、及び、組織が組み合わさり一定の機能を果たす細胞集団である器官が有る。これらの器官がひとつのシステムとして調整されて、初めて、私たちは正常な生活（生命活動）を送ることが出来る。そこで、本講義では、生命現象の理解に必要な細胞の構造、分裂や代謝などの基礎知識、更に、生命体を維持するために機能的に制御された代謝や生体内での情報伝達と生命体を守るための生体防御などについて講義を進めていく。	
	特別化学	私たちの身の中では多種多様な化学反応が起こっている。生体を構成する物質（タンパク質、脂質、ミネラルなど）が合成・分解され、その結果として正常な生活を送ることが出来ているが、生体内での化学反応に異常が生じると様々な疾病が起きることがある。そこで、本講義では生体内の化学反応の理解に必要な化学的な考え方と基本知識を身につけるために、基礎的なことから応用まで、身の回りで起こっている現象を例にして講義を進めていく。	
	生命倫理	まず、「倫理」とは何かを考える。「人〔場合によっては人以外の生き物〕にかかわる善悪の論理」そこには様々な問題がある。それらの問題を考えるてがかりとして、西欧の倫理思想、インドの倫理思想、中国の倫理思想を概観する。さらに生きとし生けるものの「生命」、人間の「生命」についても同様に考える。思想史をふりかえってみると「生命」に対する考え方にも様々なものがあったことがわかる。＜いのち＞の連鎖、かけがえのない＜いのち＞、＜魂＞などなど。その上で、具体的に、臓器移植、中絶、安楽死など現実の問題について考えてみる。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 専門基礎科目	発達心理学	発達心理学の領域において、人は成人期を過ぎると様々な面で衰退すると捉えられていたが、近年、人は加齢に伴う自己の変化と外界との関係を踏まえて、最適な行動を選択・工夫することで自己を発達させつづけることが明らかにされてきた。この授業では、成人期に至るまでの乳幼児・子ども・青年がどのように自己を発達させていくのかを、彼らが育つ環境のあり方との関係の中で論じるとともに、就職、結婚・出産・育児、子の独立・退職などの主要なライフイベントを契機に、大人がどのように自己を発達させていくのか論じる。	
	医療と法	この授業では医療関係諸法規の概略を示した上で、医療と法とをめぐると具体的な問題を論じていく。いわゆる守秘義務やインフォームド・コンセントの重要性は知ってのとおりだが、プライバシー権、自己決定権にかかわるものとして、より深く考えてみたい。安楽死・尊厳死といった問題も医療を担う者であれば一度は考えてみることであろう。こうした問題のもつ法的側面を授業では示す。代理出産や性同一性障害といった、あるいは一見突拍子もなく思える話題についても論じる。医療と生命倫理と法とが絡み合った問題がそこにはあるからである。	
	コミュニケーション論 (表現学)	日本語の持つ特性を十分に理解し、自己の考え方を上手くまとめ、話す表現力を養うとともに、実際に自己伝達演習を経験することで、どんな方法で自己表現を行えばコミュニケーション能力が高まるかを学ぶ。特に医療現場における重要なコミュニケーションである、言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションを学ぶことで、自己と医師や患者等の医療関係者との円順な関係を築くためのコミュニケーション・マネジメントを身につける。	
	食品学総論	人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。本講義では、食品を構成する水、五大栄養素、および特殊成分(香味・色素成分)の特性を化学的な視点から解説する。併せて、食品の物性、食品成分の反応などについても総合的に解説する。さらに近年生活習慣病の予防・改善の方策の一つとして、食品に新しい機能が期待されるようになってきているため、食品の機能性についても詳説する。	
	栄養代謝学	看護の対象となる人々が生きるうえでの代謝・栄養との関連を理解し、臨床実践における技術につながる健康の維持や増進、および療養生活や疾病予防について代謝・栄養に関する状況を理解し、援助につなげることができる知識を学ぶ。人間は食物を身体に取り込み、それを物理化学的に処理(消化、吸収、代謝)して生命維持に役立っている。栄養代謝学はその仕組みや栄養素の働きを解明するため、栄養素の基礎知識、消化と吸収、エネルギー代謝、疾病時の栄養などを学ぶ。	
	フィジカル フィットネス	より良く幸せで充実した人生を送るには、多様な面から探求し実践していくことが必要である。古来より「心身一如」や「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」と云われるように、体と心は一对のものとして考えられてきた。昨今はストレス社会といわれ、心身のバランスの大切さを頭で理解しているだけではなく、自分の体と対話することが求められている。それは自身の体と心の気づき—この「気づき」の方法として、主に太極拳動作を用いての身体操作法、呼吸法、ヨガや気功法等を学び、人間本来が持っている自然治癒力を高め、良い生活習慣を習得することを旨とする。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 専門基礎科目	薬理学	疾病の薬物治療において、医師、薬剤師および看護師は、それぞれの立場で協同して治療にかかわらなければならない。そのためには、投薬前後の患者と直接かかわる看護師も、薬がどのように生体に作用するのかを十分に理解しておく必要がある。「薬理学」は、疾病の治療や予防の目的で使用される薬が、生体にどのように働きかけるのかを科学的に理解しようとする学問である。本科目では、薬が作用する過程を理解し、治療薬がどこにどのように作用して疾患や症状に対する治療効果をもたらすかを解説する。	
	社会福祉・社会保障論	少子高齢社会のなかで、寝たきりや認知症などで生き延びていくことが困難になる高齢者が増え続けている。そして、児童虐待やDV、若者の雇用不安など、あらゆる世代にわたる問題が深刻化し、医療や福祉のあり方を見直さなければならなくなった。このようななかで、地域における保健・医療・福祉の包括的なケアが登場している。授業においては、地域の保健・医療・福祉のサービスシステムなどが果たしている役割を理解するとともに、社会福祉・社会保障の諸制度の現状を理解し効果的な活用法を考えていきたい。	
	社会福祉・社会活動論	少子高齢社会の中で、寝たきりや認知症などで生き延びていくことが困難になる高齢者が増え続けている。そして児童虐待やDV、若者の雇用不安など、あらゆる世代にわたる問題が深刻化し、医療や福祉のあり方を見直さなければならなくなった。このような中で地域においては保健・医療・福祉計画等にもとづく包括的なケアシステムが登場している。これらの諸サービスを必要としている人々の生活問題について、事例の検討を通して、問題の把握の仕方と問題点の整理、問題の解決・改善を図るための支援方法と各専門職の役割、対象者に関わる機関や専門職との連携のあり方などについて学び、政策的課題を考える。	
	公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学は、全ての国民が生来の権利としての健康と長寿を可能にすべく、その理論と技術を組織化・体系化した学問である。そのため本授業科目では、衛生学・公衆衛生学とわが国の衛生・公衆衛生の現状を踏まえて、健康支援や社会保障制度、母子保健、学校保健、生活習慣病の疫学と予防対策、あるいは老人保健など健康に関する極めて広い範囲を取り扱うことになる。このことはすなわち、「本授業科目が我々の日常生活と如何に密接に関連しているのか」を学ぶことであると言い換えることができる。	
	疫学	疫学とは、人間集団や地域集団を対象とし、そこに発生する疾病の流行動態を明らかにすると共に、原因を探求・特定し、疾病予防を講ずる学問である。本授業科目では、疫学的研究方法、保健指標の理解と考察、疫学の効用と限界、感染症や慢性疾患の疫学等について学ぶ。さらに看護領域においては、科学的根拠に基づく看護(Evidence Based Nursing; EBN)が求められているが、この根拠を作り出す科学的方法の一つとしての疫学の基礎を理解し、これを看護の実践に適用できる能力を養う。	
	保健統計学	健康の維持・増進、あるいは疾病予防などに関する種々のデータを理解するためには統計的手法が用いられることが多いが、このような分野を保健統計と呼ぶ。本授業科目ではまず統計学の基礎を学ぶと共に、わが国の衛生関係の統計資料の概要を理解する。さらに人々の健康に関連した指標や疾病予防の観点から、保健・医療における実践や研究に不可欠な統計的データの収集、分析方法などについての基礎的知識や技術を学習する。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 専門基礎科目	健康相談活動	近年の社会環境や生活様式の急激な変化の中で、子供達の心身両面にわたる健康問題が複雑化、深刻化している。養護教諭はこのような子供達の健康問題にいち早く気づくことのできる立場であり、養護教諭が実施する健康相談活動は重要な役割を担っている。ここでは、養護教諭の職務の特性や保健室の機能を生かした健康相談活動の基礎的な実践能力の習得を旨とし、健康相談活動の概要に加え、具体的な事例を通して、要因の把握、関係者との連携を含む解決のための支援のあり方を学んでいく。	
	学校保健Ⅱ	学校保健Ⅱでは、学校保健Ⅰの内容をふまえ、学校保健活動を展開するにあたって基礎となる児童生徒の保健管理と健康教育の理論と実際を学ぶ。具体的には、「保健管理」の一環である、健康診断、環境衛生、救急処置など、子供達の健康の保持増進を目的とする活動および、「保健教育」の一環である、保健指導や保健学習といった、健康についての認識や実践力を養う活動について、特性や実態を把握し、総合的な学校保健活動が展開できる知識や態度を養う。	
	国際保健	国際保健は、国境を跨いで対処してゆく方法を考える学問である。そこでは、関係諸機関の活動、開発援助や医療協力の理論と現実、様々な健康問題の背景と対策などについての知識が必要とされる。また、それらの知識を組み合わせ、足りない部分を調べながら、自ら考えてゆく能力も要求される。本講義では、国際保健に関する基礎的な知識を身につけるとともに、それらをもとにして具体的な問題を考えてゆく力をつけることを目標としている。	
	医療英語	As globalization continues, more foreigners have been entering Japan than ever before. Even in the medical field, the demand for the ability to communicate in English between nurses and patients, is increasing. Therefore, we live in an age where English education for doctors, nurses and caretakers is a necessity. In this course, through emphasis on communication between nurses and patients, students acquire the ability to understand patients and make them feel secure. To accomplish this goal we will focus on speaking and listening skills through the following materials. Furthermore we develop reading abilities in order to understand medical records written in English by doctors. グローバル化が進む中、日本でも多くの外国人の入国がみられる現在となった。医療の現場でも看護師と患者との間における英語コミュニケーション能力の需要が高まっている。それゆえ医師、看護師、介護士の特別な英語教育はもはや避けて通れない時代となった。この授業では特に看護師と患者のコミュニケーションを重視して患者の立場を十分理解して安心できる対応がとれるようコミュニケーションの能力を身につける。そのためにはスピーキング、リスニングを中心に授業を進行し、さらに医者が英語で書いたカルテも理解できるようにリーディング力も養っていく。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コミュニ ティ・ケ アシス テム分 野	看護学概論	看護の成り立ちと発展の歴史を学び、看護とは何か、看護を専門職としていくとはどういうことかについて理論や指針、基準より学ぶ。看護の対象となる人、家族、集団、地域、社会の健康課題について検討し、看護の重要な使命である健康の増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和について考察を深める。それらの考察をもとに、健康に生きること、病気を生きること、死ぬということを取り上げ、よりよく生きることの可能性について探求する。	
	生活概論	看護の対象となる人間を生活者の視点で捉え、生活の概念規定や生活と健康との関係について学び、健康レベルの低下した生活者に対する看護援助の必要性を理解する。また、自己の生活体験を見つめ、身近な人と比較することで日常生活行動の個別性を知り、生活者に対する理解を深める。さらに、生活者を個人・家族・集団・地域の視点で捉え、健康増進や改善を目指す教育方法について理解する。 (オムニバス方式/全8回) (② 東 ますみ/5回) 生活と健康の関係や日常生活行動の個別性を学び、健康レベルの低下した生活者に対する看護援助の必要性について学習する。 (① 野並 葉子/2回) 生活及び生活者の概念や、集団・個人を対象に教育することの重要性について学習する。 (⑬ 馬場 敦子/1回) 個人・家族・集団・地域の健康増進や改善のための具体的な方法について、学習する。	オムニバス方式
	生活援助論	対象者の個別性に応じた基本的ニーズを充足し、健康状態をより望ましい状態に調整するための基本的な日常生活援助として、入院患者の病床環境の調整、衣生活、清潔への援助を看護の役割と枠組みを用いて学ぶ。また、医療・福祉等の関連他職種と看護の専門性との違いや重なりを理解し、よりよい協働への基礎知識を得る。演習においては、看護援助に必要な技術、姿勢を習得するための訓練を行うとともに、看護の受け手の立場を経験することで、自身の看護の姿勢が対象者におよぼす影響について視野を広げられるようにする。	
	予防看護論	生活習慣病の一次予防に焦点をあて、生活習慣と疾患の発症や進展との関連、および関連施策について学ぶ。行動変容を促す理論(保健信念モデル、エンパワメントモデル、アンドラゴジー、自己効力理論等)を概観し、諸理論と対象者が主観的に捉える生活には違いがあることを知り、対象者が望む健康生活を創造する看護とはどのようなものかについて理解を深める。また疾病管理の考え方を中心に集団への看護と個への看護の関連性を学び、健康的な生活習慣づくりを支援する看護について考察する。	
	看護情報学	安全で質の高い看護を実践するため、また、チーム医療において情報は必要不可欠である。医療機関における電子カルテの導入や、地域医療連携における患者情報のネットワーク化、遠隔医療・遠隔看護の推進など、看護を取り巻く情報システムの変化は著しい。そこで、看護情報学の定義や専門性、看護における情報活用、情報倫理と個人情報保護法、医療情報システム、看護用語の標準化、遠隔看護などに関する基礎的な知識と技術を習得する。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	コミュニティ・ケアシステム分野	<p>看護倫理</p> <p>倫理の原則（善行と無害、正義、自律、誠実、忠誠）をもとに、看護実践上の重要な倫理的概念（アドボカシー・責務と責任、協力、ケアリングなど）を学ぶ。その上で、看護師の倫理的責任について看護師の機能と役割の観点から探求する。 （オムニバス方式／全8回）</p> <p>① 野並 葉子／4回 倫理の原則（善行と無害、正義、自律、誠実、忠誠）をもとに、看護実践上の重要な倫理的概念（アドボカシー・責務と責任、協力、ケアリングなど）を学ぶ。その上で、看護師の倫理的責任について看護師の機能と役割の観点から探求する。また、臨床事例をもとに看護実践の倫理的課題についてグループワーク及び検討事例の発表を通して、看護実践が協力・協働するコミュニティの中で展開していることを学ぶ。</p> <p>③ 藤田 冬子／1回 看護倫理の実践への応用について、老年看護分野の視点から臨床事例を元に検討し、看護の実践そのものに安全性、公正性、透明性が求められることを深く理解する。</p> <p>④ 玉木 敦子／1回 看護倫理の実践への応用について、精神看護分野の視点から臨床事例を元に検討し、看護の実践そのものに安全性、公正性、透明性が求められることを深く理解する。</p> <p>⑤ 下敷領 須美子／1回 看護倫理の実践への応用について、母性看護分野の視点から臨床事例を元に検討し、看護の実践そのものに安全性、公正性、透明性が求められることを深く理解する。</p> <p>⑭ 菅野 由美子／1回 看護倫理の実践への応用について、小児看護分野の視点から臨床事例を元に検討し、看護の実践そのものに安全性、公正性、透明性が求められることを深く理解する。</p>	オムニバス方式
	実践看護論	<p>看護学を構成している概念（人間・健康・環境（状況）・看護実践）と看護理論の構造から看護学の特徴について学び、実践に役立つ看護理論をわかりやすく解説する。システムや場の理論や看護実践への適用のために開発された看護理論などから、看護をマネジメントするための基礎的な考えや実践を展開するための考え方を学ぶ。その上で、実際の臨床事例をもとに、実践においてどのように看護が展開されるのか、看護過程について学ぶ。</p>	
	老年看護論	<p>加齢のプロセスや老年期の人の特徴、加齢と健康の関連及び発生する健康障害と疾病予防について理解する。高齢者が健やかに老いていけるための看護の役割や機能、高齢者を支える社会制度の変遷、高齢者が持つ価値観、高齢者が生きてきた時代とこれからの人生、高齢者ケアにまつわる倫理的問題についても学ぶ。これらを統合し健康障害により入院となった高齢者を理解するための情報収集やケア計画の立案など、老人の体験や演習も取り入れながら学ぶ。</p>	
	老年看護実践方法論	<p>加齢及び健康を障害された高齢者の状態を総合的にアセスメントできる能力を養い、老年期に多い脳血管障害、認知症、呼吸器疾患、骨・関節疾患等と共に、二次的な健康障害（廃用症候群、栄養障害、せん妄、褥瘡等）に応じた看護援助（予防も含む）を学ぶ。また地域で自立、あるいは介護を受け暮らす高齢者においても、健やかに老いを迎えるための支援や、高齢者のリハビリテーションおよび各職種の役割、地域での生活を支えるケアスタッフや連携・協働について学ぶ。さらに、終末期を迎える高齢者に対する看護援助を学ぶ。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	コミュニティ・ケアシステム分野	<p>在宅看護論</p> <p>疾病構造の変化、療養者の QOL の追求と療養生活についての自己決定、家族機能の変化などを背景に、在宅看護の概念と「生活者」としての対象理解、活動方法の特徴について学ぶ。また、小児、障がいを持つ人、終末期などの在宅療養者の看護に必要な知識・技術の統合能力を身につけ、在宅看護の展開に必要な法・制度・施設・職種、医療機関と訪問看護および他職種との連携について学ぶ。 (オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(⑮ 福山 敦子／14 回) (共同 (一部)) 在宅支援の必要な対象の理解、および、在宅看護の理念・目的を理解し、支援対象者のニーズを把握できるように、保健医療福祉制度、ケアマネジメントの方法、他職種、他機関の連携について、などについて担当する。</p> <p>(⑥ 魚里 明子／2 回) (共同 (一部)) 在宅看護の理念・目的、および、在宅看護が必要とされる社会背景、在宅看護の必要な対象者の理解について。主に、在宅支援を必要とする慢性疾患を持った人やその家族に対する支援について担当する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	コミュニティヘルスケア看護技術演習 I	<p>医療施設、在宅の場で病にある人を援助するにあたり、生活援助に必要な基本的知識を使い、生活援助技術を用いて、コミュニケーションをとりながら対象の状況をアセスメントし、生活援助を展開することによって生活援助技術における基本の知識・技術を学ぶ。 (オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(③ 藤田 冬子／4 回) (共同) 日常生活援助を行ううえでの看護の機能と役割、患者の移動・移送の援助を実践していく過程を学習する。</p> <p>(⑥ 魚里 明子／3 回) (共同) 日常生活援助を行ううえでの看護の機能と役割、排泄における援助、ヘルスアセスメントを用いて身体を観察する援助を実践していく過程を学習する。</p> <p>(⑬ 馬場 敦子／9 回) (共同 (一部)) 日常生活援助を行ううえでの看護の機能と役割、体位変換、安楽の援助、ヘルスアセスメントを用いて身体を観察する援助、バイタルサインの測定に関する援助を実践していく過程を学習する。</p> <p>(⑩ 川喜田 恵美／3 回) (共同) 患者の移動・移送の援助を実践していく過程を学習する。</p> <p>(⑮ 福山 敦子／3 回) (共同 (一部)) 排泄における援助を実践していく過程を学習する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	<p>健康レベルの低下によってもたらされる療養者の生活上の健康課題に対し、対象者の状況に応じた援助を行うことができるよう、具体的にその人に見合った基本的な方法を検討し、実践する。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(③ 藤田 冬子/4回) (共同) 対象者に合わせた生活場面の援助を行うことの機能と枠組み、食へることへの意味と看護支援に関して必要な知識と援助方法を学習する。</p> <p>(⑥ 魚里 明子/5回) (共同) 対象者に合わせた生活場面の援助を行うことの機能と枠組み、移動・活動における看護支援、事例に基づいた知識・技術を統合した援助の実践に関して必要な知識と援助方法を学習する。</p> <p>(⑬ 馬場 敦子/5回) (共同 (一部)) 清潔、排泄における援助、移動・活動における援助に関して必要な知識と援助方法を学習する。</p> <p>(⑩ 川喜田 恵美/14回) (共同 (一部)) 食へることへの援助、移動・活動における援助に関して、身体の可動性を維持し拘縮を予防するための看護、麻痺などの障害のある人の体位変換・点滴ラインのある人の寝衣交換、褥創への対処と予防、関節可動域訓練・廃用性症候群予防、医療安全・転倒に関して必要な知識と援助方法を学習する。</p> <p>(⑮ 福山 敦子/11回) (共同 (一部)) 清潔、排泄、食へることへの援助、吸引技術、気管切開のある人への援助に関して必要な知識と援助方法を学習する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	コミュニティ看護実習Ⅰ	<p>何らかの健康障害あるいは生活障害を持ち、自宅での生活が困難となった高齢者が生活する介護老人保健施設や通所リハビリテーション施設において、高齢者の活動の特性と活動の場を知ることによって、施設での高齢者の生活や施設に通う高齢者の状況について理解を深める。高齢者へのケアに参加することを通して、生活施設における回復リハビリテーション支援や疾病・障害予防のためのケアを理解する。また、施設の役割と機能、施設内の他職種間の連携、医療機関との連携体制、介護予防活動などについて学ぶ。</p>	共同
	コミュニティ看護実習Ⅱ (老年)	<p>病院に入院し治療を受ける老年期の患者を1名受け持つ。対象者の加齢による身体機能の変化、健康障害、生活障害および心理・社会面の変化から、健康上の課題をアセスメントする。また、対象者の価値観を尊重しながら、看護過程に基づいた看護計画を立案し、実施・評価する。このような高齢者の看護援助を展開する中で、専門的援助関係を形成しながら、日常生活援助を実施する。さらに、老年看護の視点から、提供するケアがどのようなものであるとよいのかについて、医療に留まらず介護保険や地域サービス等の活用など福祉の視点も取り入れたカンファレンスを行う。</p>	共同
	公衆衛生看護学概論	<p>地域看護・公衆衛生看護の理念、歴史および公衆衛生看護学に重要な概念や理論を学ぶ。公衆衛生看護活動の特性および場と対象、日本の健康政策の変遷と社会的背景、集団の健康を支える保健師活動、関係法規・施策、行政のしくみを理解する。また、地域で生活している人々を、個・家族・集団・地域社会という多重構造で捉え、生活者としての視点で考えることができる。さらに、地域社会とそこに生活している人々の健康課題をより身近に考えてもらうために、自分の生まれ育った地域の情報収集やフィールドワーク取り入れた学習を行う。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	コミュニティ・ケアシステム分野	<p>コミュニティで暮らす人々が抱える健康問題や、それらを地域住民が社会全体で支え合い問題解決していけるための方法、保健・医療・福祉に関する基本的概念、看護が担うべき役割や機能について学ぶ。また、住民主体・住民参加について理解するとともに、協働活動を推進する支援方法を理解する。さらに、そのための社会システムやその活用、環境調整及び連携について概観する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(③ 藤田 冬子/4回) 地域を基盤としたコミュニティケアの成り立ち、コミュニティケアの対象者、コミュニティケアに関わる行政や地域住民、保健医療福祉に従事する専門職の活動について学ぶ</p> <p>(⑰ 藤原 由子/1回) 慢性期看護領域では、地域で健康問題を持ちながら生活する慢性疾患を持つ人々のケアマネジメントとコミュニティケアシステムの構築と展開について学ぶ</p> <p>(⑫ 丸山 有希/1回) 小児看護領域では、地域で健康問題を持ちながら生活する小児のケアマネジメントを中心とした、コミュニティケアシステムの構築と展開について学ぶ</p> <p>(⑮ 福山 敦子/1回) 精神・地域・在宅看護領域では、地域で健康問題を持ちながら生活する精神障害者や在宅看護におけるケアマネジメントとコミュニティケアシステムの構築と展開について学ぶ</p> <p>(⑱ 牛越 幸子/1回) 母性看護領域では、地域に住む妊産婦のケアマネジメントとコミュニティケアシステムの構築と展開について学ぶ</p>	オムニバス方式
	地域看護活動論	<p>わが国における健康課題と地域特性・対象特性との関連を理解すると共に、課題解決にむけた地域看護活動を学ぶ。地域で生活している様々な健康レベル・ライフステージにある対象の特性にあわせて展開されている看護活動を学ぶ。さらにグローバルな視点を持つために、国際・災害看護についても学ぶ。母子保健・成人保健・高齢者保健・精神保健・障害者(児)保健・難病保健・感染症対策・国際看護・災害看護・産業保健・学校保健におけるヘルスケアシステムや施策、関係法規、社会資源等と保健活動を学ぶ。</p>	
	公衆衛生看護演習	<p>地域社会の中で生活および健康課題を解決するために、公衆衛生看護活動における保健指導技術を習得する。地域で生活している人々の健康の保持・増進のために、ヘルスプロモーションおよびセルフケアの考え方に基づき、地域住民が自ら健康に関する課題を解決できる力を身につけられるような保健指導の方法を学ぶ。地域看護活動の対象となる様々なライフステージ・健康レベルの個人や家族、集団、組織の支援をするために、家庭訪問・健康相談といった個別保健指導技術と健康教育・グループ学習といった集団保健指導技術を習得し、実践できるように演習を行う。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コミュニティ・ケアシステム分野	公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護活動を展開するための具体的方法論について学ぶ。母子保健・成人保健・介護予防・地域精神保健・難病保健・感染症予防・国際保健などで展開される保健師活動について、一次・二次・三次予防の視点およびヘルスプロモーションの考え方に基づいた公衆衛生看護活動について学ぶ。生活習慣病発症・重症化予防、虐待問題、健康危機管理、高齢者問題など複雑多様化している健康課題に対し、地域で活動する看護職に期待されている内容について理解・実践できるように、事例を用いた学習を行う。	
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	地域の健康課題を理解し、健康の保持・増進に向けて組織的に解決する活動方法を学ぶ。母子保健ネットワークやフォロー体制、障害者（児）対策や社会での支援システム、介護予防施策など、地域で展開されている集団や組織における保健師や看護師の役割・機能、地域看護活動の実践を学び、地域看護過程の展開方法について理解する。さらに、地域ヘルスケアシステムの構築、地区組織活動の具体的方法と地域ネットワークづくり、支援体制づくり、地域で展開されている保健活動と実践技術を理解する。	
	公衆衛生看護管理論	行政における保健活動を展開するために必要な公衆衛生看護管理の概念や理論、公衆衛生看護活動の展開技術の具体的な方法について学ぶ。実際の地域を事例に用いて、既存データの分析や地区踏査により地域看護診断を行い、健康課題を抽出する技法を使用する。さらに地域看護過程およびPDCAサイクルを理解するために、地域看護診断によって把握、分析した情報から、課題解決のための地域看護活動計画を立案するプロセスを学び、また、PDCAサイクルを理解するために、評価・改善も考えられる模擬事例を用いた学習を行う。	
	災害看護	健康危機発生の未然防止、健康危機発生時に備えた準備、健康危機への対応、健康危機による被害の回復の4つ側面を踏まえた上で、災害の定義と分類、災害時の社会制度を理解し、災害時要援護者の看護の特徴と災害サイクルに応じた活動現場別の看護について学ぶ。また、災害被災者や救護者のこころと身体健康に及ぼす影響を理解し、その支援方法について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (⑥ 魚里 明子/1回) 健康危機管理の定義や保健所の役割、健康危機管理の4側面について学習する。 (② 東 ますみ/2回) 災害看護の概論や、準備期、災害発生時、対応期、回復期、復興期の災害サイクルに応じた看護実践のための基礎的知識を学習する。また、災害と情報について理解し、情報の利点を減災に活かす重要性について学ぶ。 (⑧ 横内 光子/1回) 災害直後の被災者への看護ケアについて学習する。 (⑨ 元木 絵美/1回) 災害時における慢性疾患等の高齢者への看護ケアについて学習する。 (④ 玉木 敦子/1回) 災害時における精神障害者への看護ケア、及び被災者と救護者への精神的な看護ケアについて学習する。 (⑪ 田村 康子/1回) 災害時における妊産褥婦への看護ケアについて学習する。 (⑨ 内 正子/1回) 災害時における子どもへの看護ケアについて学習する。	オムニバス方式

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	コミュニティ・ケアシステム分野	<p>学校保健Ⅰ</p> <p>学校保健は学校教育の一環として明確に制度化されている教育活動であり、児童生徒の現在および将来における健康生活の確立に不可欠であるという認識のもと、児童生徒の健康の保持増進を図るため、学校現場における保健活動の意義と特殊性を理解する。まず、学校保健の制度と歴史を概観し、続いて児童生徒を取り巻く健康や環境に関する課題を取り上げ、学校保健教育活動に必要な、健康や安全への配慮、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成する。</p>	
	公衆衛生看護活動論実習	<p>地域で生活している人々の健康課題を把握し、セルフケア能力を高める保健指導技術や他職種との連携、マネジメント能力といった公衆衛生看護活動における看護職の役割を理解する。実習は保健所等の行政機関で行い、担当及び管轄する地域において展開されている様々な健康レベル、ライフステージの保健・福祉事業に参加する。健康教育、家庭訪問、健康診断、健康相談などの事業を見学すると共に、グループまたはペアで保健指導を担当し、計画、実施、評価を行う。</p>	共同
	公衆衛生看護管理論実習	<p>保健所等の行政機関において実習を行い、保健所の機能と役割、地域特性と健康課題、保健師活動について学ぶ。行政機関における看護職の役割や保健医療福祉の連携について理解し、地域の人々の健康課題を把握するための地域看護診断を行い、セルフケア能力を高めるための公衆衛生看護管理技術を学ぶ。また、公衆衛生看護管理に不可欠なPDCAサイクルの展開方法や地域ケアシステムづくり、危機管理体制について理解する。実習効果を上げるために、公衆衛生看護活動論実習と合わせて行う。</p>	共同
医療看護分野	人体のしくみと機能Ⅰ	<p>看護学の最も基本となる正常な人体のしくみと機能について基本的知識を習得する。今後の疾病と治療を学ぶにおけるつながりを考えることができるようになることを目指す。また、生命について、生きることについての視点も合わせて学びながら考察していく。人体のしくみと機能Ⅰでは、主に消化器、呼吸器、造血器について学ぶ。①身体の機能や構造に関する用語と意味を正しく説明できる、②身体の機能を構造に結びつけて説明できる、③身体の正常な機能と構造から、異常となるメカニズムを推測できることを到達目標とする。</p>	
	人体のしくみと機能Ⅱ	<p>看護学の最も基本となる正常な人体のしくみと機能について基本的知識を習得する。今後の疾病と治療を学ぶにおけるつながりを考えることができるようになることを目指す。また、生命について、生きることについての視点も合わせて学びながら考察していく。人体のしくみと機能Ⅱでは、運動器、内分泌機構、脳神経機構、生殖器について学ぶ。①身体の機能や構造に関する用語と意味を正しく説明できる、②身体の機能を構造に結びつけて説明できる、③身体の正常な機能と構造から、異常となるメカニズムを推測できることを到達目標とする。</p>	
	疾病と治療Ⅰ	<p>超高齢社会を迎えたわが国の現状を把握し高齢者に対する医療の重要性を理解することを達成目標として、高齢者および高齢者に特徴的な症候や疾病およびその病態などについて概説することで十分な理解に努める。授業計画としては、高齢者および高齢者疾患の特徴と老年症候群、生活習慣とメタボリック症候群、糖尿病、循環器疾患および動脈硬化性疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌疾患および神経筋疾患、血液疾患および免疫疾患、これらを中心に計8回の講義を行う予定である。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療看護分野	疾病と治療Ⅱ	<p>疾患に対する手術的治療が対象となる外科的疾患について学ぶ。外科的疾患とは脳神経外科、胸部外科、消化器外科、整形外科など多岐にわたる。外科学ぶことで看護に必要な外科学的知識を修得できることを目的とする。</p> <p>外科的疾患全般に関わる病態・臨床動態を学び、各種疾患の原因、症状、治療について基礎と実際の臨床現場の方法を学ぶ。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(73 佐古 辰夫/5回) 外傷、熱傷、炎症、腫瘍、消化器疾患について学ぶ。</p> <p>(74 高橋 玲比古/3回) 心臓疾患、血管疾患、肺疾患、胸壁疾患について学ぶ。</p> <p>(75 眞庭 謙昌 1回) 肺疾患、胸壁疾患について学ぶ。</p> <p>(76 田中 優子/1回) 乳房疾患、内分泌疾患について学ぶ。</p> <p>(77 吉田 泰久/3回) 脳神経外科疾患について学ぶ。</p> <p>(78 水野 敏行/2回) 整形外科疾患について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	疾病と治療Ⅲ	<p>健康に対する人間の反応は、疾病およびそれに対するさまざまな医療行為に対する人間の反応である。臨床で内科的治療を行っている患者を把握するため、病態、臨床症状、検査所見、治療の方法について系統的に学ぶ。主として呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液疾患の病態、症状、身体所見、検査、診断、治療法について学ぶ。①疾病の成り立ちを正しく説明できる、②疾病の診断を正しく説明できる、③疾病の回復過程を正しく説明できることを到達目標とする。</p>	
	疾病と治療Ⅳ	<p>精神医学の歴史と精神医療の現状、精神科診断学、症候学、疾病分類学、精神科面接法、精神科検査学、精神科治療学、共同体及び地域のメンタルヘルスについて講義し、さらに代表的な精神疾患については、概念、疫学、病因、症状、鑑別診断、経過、治療、予後を概説する。また将来、看護師として働く際には、こころの病をもつ人に対して深い理解と教養ならびに応用力をもって看護することが求められる。そこで、授業では授業内容に関連する資料として、一般書、映画、DVDなどを学生に提示することによって、学生のこころの病に対する理解が深まるようにする。</p>	
	感染免疫学	<p>人類は長い歴史の中で常に微生物感染症との闘いを続けてきた。本授業科目では、感染(症)の原因となる微生物の種類とそれらの特徴、宿主側の防御機構と疾病の成り立ち、検査法や診断法、治療の概要と回復の促進に加えて、感染予防法等を学ぶことによって、感染とこれを防ぐ宿主の免疫応答などの相互関係を理解する。これらに加えて本授業科目では、人獣共通感染症、新興・再興感染症、さらには感染症法などといった今日的諸問題や保健医療福祉行政とのつながりについても学習する。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療看護分野	医療ケアシステム論	<p>個人と家族ならびに人々が暮らす社会の健康を支える保健・医療ケアシステムの基本的なしくみと、保健・医療サービスの提供方法について理解する。また、多様な保健・医療専門職との連携・協力の実践方法を知り、チーム医療の在り方と、看護職としてのリーダーシップ、メンバーシップについて学ぶ。さらに、安全で質の高い保健・医療サービスを提供するための政策を含む取り組みの概要を理解し、看護職として果たすべき役割と求められる能力について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(⑧ 横内 光子/2回) 個人と集団の健康を支える医療ケアシステムの基本的なしくみと、医療における看護サービスの特徴、看護師の役割ならびに看護サービス提供のしくみを理解する。</p> <p>(② 東 ますみ/2回) 個人と集団の健康を支えるために、多様な機関、多様な職種と連携・協力し、効果的かつ効率的な保健・医療サービスを提供するためのチーム医療の在り方と、看護職としてのリーダーシップ、メンバーシップについて学ぶ。</p> <p>(⑦ 宇賀 昭二/2回) 感染管理など安全に医療を提供するためのしくみと、検査・検疫等国の保健医療の仕組み・体制について概要を理解する。</p> <p>(30 加堂 哲治/2回) 安全で質の高い医療の提供を支える医療保険制度の概要と、主な医療の質評価の方法、並びに質を維持しより良い医療を提供するための取り組みについて学ぶ。</p>	オムニバス方式
	急性期看護論	<p>地域社会で生活を送る人の健康状態の変遷過程における急性期という観点から、急性期にある人の身体・精神・社会的な特徴と、個人や家族にとって生命・健康の危機状態におかれる体験の意味を理解し、必要な看護援助について学ぶ。生体侵襲理論と病態の理解に基づき、的確に生命・健康の危機状態をアセスメントするとともに、危機理論を基盤とした精神・社会的な側面のアセスメントの能力を習得する。また、患者・家族の苦痛を緩和し、生命・健康の危機からの回復と社会復帰を支援するための、看護実践の知識と技術について学ぶ。</p>	
	慢性期看護論	<p>成人期にある人の特有な健康問題のうち、慢性期の健康障害と病気と共に生きる人の体験を理解し、ケアリングの考えを基盤にした看護援助について学ぶ。慢性期にある人の病気の体験や看護アセスメントから、健康障害による身体の変化を理解する。そして、生活習慣病や難病などの慢性疾患の人の健康の回復・苦痛の緩和への看護援助の理論と実践を理解する。また、成人期にある人の健康の増進、生活習慣病の予防の看護援助の理論と実践を理解する。さらに、健康障害により終末期にある人の理解と苦痛の緩和への看護援助の実践を学ぶ。</p>	
	治療看護論	<p>適切な治療や看護を行うためには、人は自らの病気や症状をどのように受け止めているかといった、その人独自の病気の体験をつかんでおく必要がある。</p> <p>本科目では、生理学や病態学で学んだ知識を活用して人の病気の体験を理解する方法を学び、人の健康回復を支援するために必要な知識と技術を習得することを目的とする。具体的にはフィジカルアセスメントを含んだ看護ヘルスアセスメントを実践できるよう、身体・生活・心理的な変化を捉える技術、薬物療法を中心とする治療支援、治療選択における自己決定、病気を捉えていくうえでの情報管理などについて学習する。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療看護分野	治療療養支援技術演習	<p>患者が健康を回復するために必要な治療や療養に関連する基礎看護技術を対象者に合わせてする習得ことを目標とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑧ 横内 光子/8回) (共同(一部)) 看護の治療・療養技術である創傷管理、与薬、注射、輸液管理、輸血、体位ドレナージ・呼吸練習・胸腔ドレナージ、モニタリングを試験、事例におけるシミュレーションを組み合わせる学ぶ。</p> <p>(⑩ 藤原 由子/7回) (共同(一部)) 看護の治療・療養技術である与薬、注射、酸素吸入療法、吸引、症状・生体をモニタリングするための心電図などを試験、事例におけるシミュレーションを組み合わせる学ぶ。</p> <p>(⑫ 元木 絵美/8回) (共同(一部)) 看護の治療・療養技術である創傷管理、排泄援助、症状・生体をモニタリングするための心電図などを試験、事例におけるシミュレーションを組み合わせる学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	精神看護論	<p>精神看護学の定義と目標、精神看護実践の基盤となる理論や知識、倫理的態度について学ぶ。また精神医療保健福祉に関する歴史、法制度、精神医療におけるチームアプローチについて学ぶ。さらに精神障がい者と家族を取り巻く現状、サポートシステムを学び、課題を検討する。精神科病棟、地域精神医療、リエゾン精神看護など様々な場における精神看護の役割と機能について考察を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 玉木 敦子 /12回) 精神看護学の概要、精神看護実践の基盤となる理論や知識、精神保健医療福祉に関する歴史、現状、法制度、リエゾン精神看護について担当する。</p> <p>(⑮ 大谷 利恵 /3回) 精神障がいをもつ人とその家族の体験、精神障がいをもつ患者の看護、精神医療保健福祉におけるチームアプローチについて担当する。</p>	オムニバス方式
	こころの健康増進と看護	<p>人間は日々生活する中で様々なストレスを体験し、人生を生きる中で様々な危機に遭遇する。この授業では、自分自身の体験や実習での体験をもとに、様々な場や状況で人間が体験するストレスや危機、起こりうる精神的諸問題を理解し、その中でどのようにこころの健康を維持・増進するかを理解する。さらにそこでの看護職の役割を考察する。主なテーマは、現代社会におけるストレスとこころの健康、身体疾患により療養生活を送る患者のこころの健康と看護、周産期の女性のこころの健康と看護、看護職のこころの健康とストレスマネジメントである。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 医療看護分野	精神看護支援技術演習	<p>視聴覚教材や体験記等を利用して、様々な精神障がい者の病態、症状、治療などが生活や対人関係に及ぼす影響と、精神障がいをもつ人の体験を理解する。また精神障がいをもつ人への看護実践について、精神健康状態のアセスメント技術、セルフケアモデルに沿ったアセスメントと看護援助方法を学ぶ。さらにロールプレイやプロセスレコードを用いて、人間関係を構築するための態度とコミュニケーション技術を習得する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(㊟ 大谷 利恵 /12回) 様々な精神障がいをもつ患者の看護、患者—看護師関係と治療的コミュニケーション、看護展開(事例演習)について担当する。</p> <p>(④ 玉木 敦子 /3回) 精神科領域における治療的アプローチと看護、精神状態のアセスメント、発達障害をもつ患者の看護について担当する。</p>	オムニバス方式
	医療看護実習Ⅰ	<p>医療施設内における施設管理の実際や、看護業務、看護場面を見学し、医療施設や看護職の役割と機能について学ぶ。また患者とのコミュニケーションを通して、入院生活や病気の体験を知ることが目的とする。この実習は看護専門職として社会化していくプロセスの初期段階として最初の位置づけの実習でもある。入院患者の生活や病気の体験を知ること、地域における医療施設の役割と機能について学ぶこと、看護業務や看護場面の見学を通して看護職者の役割と機能について学ぶことを到達目標とする。</p>	共同
	医療看護実習Ⅱ(精神)	<p>精神科病院およびデイケア等の通所施設で実習を行う。病棟実習では精神障がいをもつ人を受け持ち、人間関係構築のプロセスを体験しながら、自己洞察、他者理解を深める。また、対象者の体験に寄り添い、生活援助を実践しながら、心身の健康状態や心理・社会的要因が生活や対人関係に及ぼす影響を理解し、セルフケアの維持・向上、自立や自己実現に向けた看護援助について考察する。更に、精神科病院や地域で行われている様々な治療的アプローチを学び、チーム医療における看護職の役割や他職種との連携、精神障がいを持つ人が利用できる社会資源について学ぶ。</p>	共同
	医療看護実習Ⅱ(急性期)	<p>医療施設において、周手術期あるいは急性期にある成人期から老年期の患者を受け持ち、侵襲に対する多様なリスクと生体反応、回復に影響を及ぼす患者・家族の特性をアセスメントし、苦痛を軽減して患者・家族のもつ回復力を最大限に引き出すための看護援助を学ぶことを目標とする。また、早期の社会復帰に向けたチーム医療における看護師の役割、入院前後の多職種、多施設・機関の連携の実際を理解し、より効果的な急性期医療・看護について考えることを目指す。</p>	共同
	医療看護実習Ⅱ(慢性期)	<p>医療施設の成人病棟において、ライフサイクルの成人期から老年期にあり慢性的な健康問題を抱える人を受け持ち、患者の生活状況と病気の体験を理解しながら、身体を測定し検査を受ける、長期に疾患や病気の症状を管理していく、継続的な薬物療法を行うことへの看護援助を学ぶ。また、患者を地域で支えていくための看護師の継続的な視点や入院前後の患者を取り巻く環境の調整がどのように行われているかを理解し、慢性的な健康問題を抱えた人が、個々の安寧や可能性を見出すことができる慢性期医療・看護について考えることを目指す。</p>	共同

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 成育看護分野	疾病と治療 V	この科目では、次世代の成長を支援することを目的とした母子への看護を実践できるように必要な知識を得ることを到達目標とする。授業内容として、妊娠・分娩・産褥の各過程における母体の生理機能の変化とそれらに伴う各種病態、不妊や不育など妊孕能そのものの異常、妊孕現象と密接に関連する女性生殖機能調節機構の異常や女性生殖器の器質的疾患、女性のライフステージという概念と身体生理機能の変調との関連について概説する。	
	疾病と治療 VI	受講生が小児の成長発達、症状、疾患に関する基本概念を理解するように、授業計画として、成長発達の評価、症候に基づく疾患鑑別、新生児の生理、新生児疾患、染色体・遺伝子異常、遺伝カウンセリング、先天代謝異常スクリーニング、小児の代謝・内分泌疾患の診断・治療、小児の免疫・アレルギー疾患の診断・治療、小児期感染症、呼吸器疾患、消化器疾患の診断・治療、小児期循環器疾患、肝臓疾患、血液・腫瘍性疾患の診断・治療、小児神経・筋疾患の診断・治療、社会小児科学、小児救急の内容を講義する。	
	小児看護論	小児期における各発達段階の特徴を理解し、その育ちに影響する環境について学び、子どもが健康に生活するための支援について学習する。また、子どもの権利、セルフケア、子どもが育つ段階での教育、福祉と医療のあり方を検討し、他職種との連携を通して、小児看護の役割を学ぶ。子どもが健康逸脱した状況を理解し、子どもにとっての入院治療の意味を考察し、看護援助を学ぶ。近年、子どもと関わる機会が少ないため、講義では視聴覚教材を多く使い、子どもの行動や子どもとのコミュニケーションについて学ぶことができるようにする。	
	小児療養看護論	疾患や障がいをもって生活する子どもを理解し、子どもと家族への看護援助を学ぶ。健康逸脱した子どもに必要な様々な状況（外来受診、検査・処置・治療等）に対しての子どもの体験意味を理解し、子どもが主体的に取り組むことができる援助方法を学ぶ。健康レベルの状況に応じた子どもの反応を理解し、必要な援助を学習する。また、子どものセルフケアの一部を担う家族の反応も理解するとともに、必要な援助を学習する。講義では、闘病記や視聴覚教材を用いたり、援助方法に使用する看護用具に実際に触れながら学習する。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 成育看護分野	家族看護論	<p>看護の対象として、家族をユニットとしてとらえ、家族アセスメントと、家族への援助を学ぶ。家族、家族看護の定義を学び、家族を理解するための理論（家族システム理論、家族発達理論など）や援助方法について学習する。また、臨床や在宅の場で遭遇する事例を用いながら、看護過程の展開をグループワークする。様々な状況にある人の家族のアセスメントと家族支援について学習する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(⑨ 内 正子/4回) 家族とは、家族看護の定義と家族看護の変遷について学習する。家族を理解するための理論を学習し、家族アセスメント、家族支援について概観する。健康障害をもつ子どもの家族について理解し、家族アセスメントと家族支援について学習する。全体の総括を行う。 (⑧ 横内 光子/1回) 急性期の健康状態にある患者の家族アセスメントと家族支援について学習する。 (⑩ 元木 絵美/1回) 慢性期の健康状態にある患者の家族アセスメントと家族支援について学習する。 (③ 藤田 冬子/1回) 高齢者の家族アセスメントと家族支援について学習する。 (⑫ 大谷 利恵/1回) 精神に障がいがある人の家族アセスメントと家族支援について学習する。</p>	オムニバス方式
	養護概説	<p>「児童生徒の養護をつかさどる」専門職である養護教諭は、教育職員の一員として専門性を生かし、学校保健推進の中核的役割を果たしている。養護教諭の職務の専門性と、養護教諭独自の職務である養護活動について具体的な展開方法を学び、専門職として果たすべき役割を論究する。また、学校内の他の職種や、学校外の専門機関および、保護者・地域との連携についても合わせて学習し、保健室の機能を生かした職務を実践できる能力を養う。</p>	
	母性看護論	<p>周産期にある女性と新生児、父親、家族の健康に関連する諸問題を概観し、次世代の健全な育成を支援する母性看護の役割を理解する。愛着理論や相互作用、役割移行理論など、母性・父性とは何かを考え、母子の健康を理解する上で基盤となる諸理論や母子保健関連法律、施策、社会資源を学ぶ。周産期の母子に生じる生理的変化や正常からの逸脱、それらに伴う対象の反応に関する理解を深め、これらを体験しながら生活している対象が、自らの能力を活かしてこの時期をより健康に過ごすために必要な看護援助ができる能力を養う。</p>	
	女性の健康増進と看護	<p>女性の健康を考える上で必要な概念、ならびに女性の健康に影響する社会システム・環境、ライフステージに伴う健康課題・問題を理解し、女性が自ら能力を生かしてより健康に過ごすために必要な看護の方法を学ぶ。女性の健康について、生涯を通じた一連の発達の变化の中で概観し、生物学的側面のみならず心理・社会・文化的側面も考慮した視点で理解し、看護援助ができる能力を養う。内容は、女性の健康を考える上で必要な概念、成長発達・加齢に伴い変化する女性特有の機能と心理社会的な特徴・健康上の課題などである。</p>	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 成育看護分野	成育看護技術演習Ⅰ	<p>成育看護分野における基盤的な看護技術を学ぶ。小児看護では、子どもの成長・発達のアセスメントや療養生活を支援するために必要な技術（身体計測、バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント、清拭、輸液管理など）について小グループに分かれて学ぶ。母性看護では、周産期における母子の健康状態を理解するために必要な技術として、妊婦および褥婦、新生児のヘルスアセスメントとケアについて、実施する上での基本的知識の理解と技術を学ぶ。演習は小グループに分かれて行う。学生は事前課題に基づき演習の予習を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑨ 内 正子/7回) (共同) 小児看護における基本的な看護技術を学ぶ。 (⑭ 管野 由美子/7回) (共同) 小児看護における基本的な看護技術を学ぶ。 (⑤ 下敷領 須美子/8回) (共同) 母性看護における基本的な看護技術を学ぶ。 (⑱ 牛越 幸子/8回) (共同) 母性看護における基本的な看護技術を学ぶ。 (⑪ 田村 康子/8回) (共同) 母性看護における基本的な看護技術を学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同
	成育看護技術演習Ⅱ	<p>成育看護分野における看護過程を学ぶ。小児看護では、療養生活を送る子どもの事例を通して、情報収集、分析、看護目標・看護計画の立案、実施のプロセスについてグループワークを行う。ロールプレイなどを行い、情報の取り方や看護の対象者の反応を読み取る能力も学ぶ。母性看護では、出産後早期にある母子と家族の事例に基づき、健康状態、関係性、親役割取得の視点から情報の整理、解釈・分析、計画立案をグループワークで行う。立案した計画は実際にロールプレイでも実践し、実際にケア提供する上での示唆を共有する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑨ 内 正子/8回) (共同) 小児看護における看護過程を学ぶ。 (⑭ 管野 由美子/8回) (共同) 小児看護における看護過程を学ぶ。 (⑤ 下敷領 須美子/7回) (共同) 母性看護における看護過程を学ぶ。 (⑱ 牛越 幸子/7回) (共同) 母性看護における看護過程を学ぶ。 (⑪ 田村 康子/7回) (共同) 母性看護における看護過程を学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同
	成育看護実習Ⅰ	<p>既習の生活援助についての知識や技術を地域で生活する子どもへの看護実践に適用し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を学ぶ。具体的には、地域にある保育所・幼稚園において実習を行い、乳幼児とのコミュニケーションを体験し、子どもの成長・発達を理解し、健康な生活のあり方を考察し、その支援について学ぶ。保育士・幼稚園教諭の乳幼児への接し方や支援を見学し、援助者としての態度を養う。多職種との連携・協働を通して、看護の役割を学ぶ。</p>	共同

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 成育看護分野	成育看護実習Ⅱ(小児)	小児看護に関する既習の知識・技術を看護実践に用いて、理論と実践を結び付けて理解できる能力を養う。具体的には、子どもが入院している施設で2週間の実習を行い、療養生活を送る子どもを受け持ち、子どもを身体的、心理的、社会的側面から全人的に理解する。子どもやその家族と援助的人間関係を築き、関わりを通して必要な看護を判断し、安全かつ安心できる看護実践能力の基礎を修得する。また、子どもと家族がよりよい療養生活を送るための、社会資源や多職種連携のあり方について学び、看護の役割について理解する。	共同
	成育看護実習Ⅱ(母性)	周産期にある母子との関わりや周産期看護に携わる看護職との関わりを通して、母子の生理的変化や心身の適応過程ならびに健康ニーズを理解し、その健康状態の維持・促進や親役割取得に必要な看護の知識・技術・態度を学ぶことを目標とする。母親と同様に親となる過程にあるパートナーやその家族のニーズにも目を向け、看護者としての関わりを考える。実習を通して、母子の健康生活を支援するための保健医療制度・社会資源やチーム医療連携についても学ぶ。これらを統合して、母性看護における看護師の役割について考察する。	共同
	助産学概論	女性の生涯を通じて性と生殖を支援する助産の基礎となる考え方、対象の特性に関する基本的理解、出産や女性を取り巻く近年の課題に関する知識を学ぶ。講義内容は、助産に関する基本概念、助産師の身分と法的責任・機能と役割、助産の歴史の変遷、助産と倫理、セルフケア理論や女性の意思決定支援、女性中心のケアなど助産師が行うケアの基盤となる諸理論、日本と世界における母子保健の動向と課題などである。これらを通して、助産についての理解を深める。	
	助産診断技術論	妊婦、産婦、褥婦、新生児とその家族の健康状態をアセスメントし、助産過程の展開に必要な診断と援助を行うために必要な知識を得ることを目的とする。特に、分娩期に関して、分娩経過を正しく判断し、適切な分娩介助が出来るために必要な産科学的知識や助産診断技術、助産技術の基本を理解する。さらに正常から逸脱した場合や緊急時の判断などの助産診断や対応が出来るよう、ハイリスク妊娠・分娩・産褥や産科手術・検査、産科救急、新生児蘇生に関する知識を得る。	
	助産診断技術論演習	妊産褥婦と胎児・新生児の健康水準を診断できる能力を養い、助産過程の展開に必要なアセスメントおよび援助技術の具体的な方法を学ぶ。アセスメントでは主に妊娠・分娩期を中心とした事例学習により、関連情報の統合と理解、経過とリスクの予測、必要な看護支援やリスク対応について学び、実習に向けた実践能力を獲得する。援助技術演習では、分娩介助に必要な環境や物品準備、分娩介助技術、出生直後の新生児ケア、保健指導技術などを含む。加えて、女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する相談・教育・保健指導、受胎調節指導に必要な知識と援助技術の具体的な方法を学ぶ。	共同
	助産管理	助産業務及び運営に関する法的制度を理解し、業務の運営、調整及び評価ができる能力を養う。加えて、産科領域における医療事故の特徴を理解し、助産に関わる危機管理について学ぶ。助産師外来や院内助産についても現状と課題を学ぶことを通して、助産業務に関する管理的視点を養う。助産師の業務遂行に関する法令、及び助産に関わる安全確保と医療事故への対応、病院及び助産所における効果的な助産業務遂行のための管理の原則と方法、院内助産所における助産業務管理、病院及び助産所の運営と管理の相違、助産業務の評価などである。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	成育看護分野	助産学実習	妊産褥婦と胎児・新生児の心身の経過を判断し、ニーズ、健康課題・問題を理解し、必要な援助を計画・実践・評価する能力を養う。特に、正常分娩を中心とした助産援助を安全・安楽・満足を考慮して実践するために必要な基礎的能力(知識・技術・態度)を習得し、発展させる。正常な経過に加えて、異常の予測と判断ができ、適切な対応ができる能力を習得する。また、妊産褥婦と新生児に対し必要な保健指導が実践できる能力を養う。助産師としての役割と責務についても実習を通して理解する。これらを通して、助産を中心とした看護の方法を学び、助産師の役割について考察を深める。	共同
	統合看護科目	学びのグループゼミⅠ	学びのグループに参加し、他年次生の学びを聴くことを通じて、看護や看護の対象となる人々への関心を高めることが到達目標である。自らの1年次における学習目標をまとめ、異なる学習経験を持つ他年次生の実習経験や実践事例に関するディスカッションを聴くことで、看護に向き合う姿勢や態度を学び、看護職としてのアイデンティティを養いながら、第Ⅰ段階の実習に向けてのレディネス(準備性)を整えていく。看護や看護の対象となる人々へ関心を向けながら、自身の将来への大まかな見通しを想像することも期待する。	共同
		学びのグループゼミⅡ	学びのグループに参加し、病気の診断や治療のために入院している人への看護実践を聴き、自らの知識や経験を活かして看護過程の展開や倫理的判断について考えることを到達目標とする。第Ⅱ段階の実習のうち2年次に経験した実習について発表するとともに、自己の学びをより豊かにする方法として、看護に対する問いを持ち、他者から学ぶ姿勢を身につけ、第Ⅲ段階の「総合実習(地域・在宅)」・「課題探究」の報告からは、看護の役割や拡がり(予防から治療、地域・在宅への看護の拡がり)についても考えを深めていく。	共同
		学びのグループゼミⅢ	学びのグループに参加し、他者に看護実践を表現すること、伝えることを通じて、自己の学びを深め、看護専門職について考えることを到達目標とする。3年次に経験した第Ⅱ段階の実習について発表するとともに、他年次生が行う第Ⅱ段階、第Ⅲ段階の実習報告会では、これまでに学習した知識や技術、経験を活用して、ディスカッションに参加する、グループ全体の学びを促進するために検討するべき課題を見出すなどして、看護実践における看護過程の展開や倫理的判断について探求を続ける。	共同
		学びのグループゼミⅣ	学びのグループに参加し、第Ⅲ段階の実習である「総合実習(地域・在宅)」で掴んだ臨床の看護課題を「課題探究」として取り組み、そのプロセスを発表して、看護の学習者として自立することについて考えを深め、看護を職業としていくことや将来のキャリアについて目標を見出すことを到達目標とする。また、学びのグループのなかで助言者の役割を引き受け、2年次生及び3年次生が行う第Ⅱ段階の実習経験の発表において、これまでに学習した知識や技術、経験を活用して助言を行う。さらに、看護を実践していく仲間や仲間と共同する重要性についても学ぶ。	共同

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	統合看護科目	課題探究	学生個々が捉えた臨床における看護課題を焦点化し、その課題を洗練させていく一連の演習プロセスと、学生の看護課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるためのフィールドワークやデータ収集を行う実習プロセスを組み合わせる。学生は看護の各専門科目群に分かれて学ぶことになるが、助産師に関する科目、保健師に関する科目を選択した学生はそれぞれの専門科目群の教員のもとで演習・実習を行う。臨床における看護の現象を看護課題として取り組むことで、専門的知識・技能、最新の研究結果を用いた看護実践力を涵養し、看護専門職としての姿勢・態度を身につけることを目標としている。	演習 60 時間 実習 80 時間 共同
		総合実習（地域・在宅）	対象の特性に応じた計画的な看護を実践する能力を養うとともに地域・在宅における看護の継続性を体験的に学ぶ。また、看護専門職として健康問題を持った人やその人を取り巻く保健・医療・福祉の課題に向かう態度を身につけ、コミュニティにおける看護の実践を向上させる研究的な視点につなげていくことを学ぶ。病院における退院調整や在宅や地域の家庭訪問の場面に入り、家族背景に応じた調整の仕方、社会資源の活用の仕方、他施設との連携などを学び、複数の患者を受け持ち、担当している対象者への援助につなげていく。	共同

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教職論	教師になるに当たっての心構えや対応力を学び、将来の教師としてのあるべき姿を考察する。そして、将来の仕事として教職が適しているのかどうかについても考えさせたい。そのため、学校教育全般についての理解と、「教職とは何か」について、教職の意義、教員の役割、職務内容等を、教育事例を参考に概観する。また、社会の大きな変化とともに生じている学校教育の課題に対してどう対応するかも教師に課せられた課題である。この課題解決のための資質や能力について考え、期待される教師像を探求し将来の教職の基礎としたい。	
	教育基礎論Ⅱ	この講義では、「教育」とは何かということをも「社会化」「発達」といった概念を用いて検討し、次いで「教育」がどのように行われてきたか、行われているかということをも、現在の日本で起こっている教育問題のほか、過去の事例（歴史）、外国の事例なども含めて解説する。また、「教育」を支える理念や思想についても学ぶようにする。これによって、「教育」を多角的に捉えて考える力、必要や興味関心に応じて自ら調査、研究を行う力をつけることを目的としている。	
	教育心理学Ⅱ	本講は、「人は生涯発達を続ける」ということを理解し、学校という臨床の場で児童だけでなく保護者や教員も含めて人が主体的に「発達」するための支援の重要性を学習する。子どもたちが抱える障害特性、障害児をもつ家族の心理、生活背景への理解と共感を深め、福祉や医療等専門職との連携を通して支援を構築していくことの基礎を学ぶ。同時に子どもや大人が置かれている社会状況が、からだと心にどのように影響するのかを科学的に学習する。理論と実践を織り交ぜながら学校保健の立場に立った視点を養うことを目標とする。	
	教育社会学	教育と社会との関連について、身近な教育問題を例として取り上げ、それらを社会学の立場から分析する。具体的には、組織や制度といった教育の社会的側面や、また経済や政治や家族など教育を取り巻く社会との関連に着目して考えるようにしたい。さらに世の中に流布している教育に関する常識や「べきだ」論からは一歩距離を置いて相対化する力、様々な資料を理解し多角的に分析する力をつけることも期待される。統計資料、新聞や雑誌の記事、研究書などの文献を実際に扱い、これらの読み方、分析の仕方についても学習していきたい。	
	人権教育	この講義では、人権の問題を広範な領域から具体的事例を引きながら、教職を目指すものが差別のない社会とは何かを問える力を養う。人権の問題を身近な切実なものとして学生に捉えさせ、一人一人の学生がどのように問題解決を図っていくのかを見守りながら講義を進行する。また、時代を経て、様々な人々の功績により、人権への意識や平等感などが培われてきたことを適切な歴史的な認識を修得できるように、多くの資料を提示して、討論も含めて学生の主体的参加を促す。	
	教育行政学	現在、日本では国民の教育を受ける権利が保障されている。しかしながら、そのような権利は、それを支える教育に関する法規や制度、適切な教育行政の作用がなければ有名無実化してしまう。「教育行政学」の講義では、教育法規や教育制度、教育行政に関する基本的な考え方を概説し、今後の教育行政をめぐる様々な課題と展望についても考察する。教育行政に関する基礎的・基本的な知識を習得し、教育行政の役割や諸課題について思考を深め、「教育」について、これまでよりいっそう深い考察ができる力の獲得を目指したい。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教育課程総論	学習指導要領の変遷をみると、経験重視の教育観と、教科内容重視の教育観とが入れ替わるように現れている。このような現象を理解するために、教育課程（カリキュラム）の基本的な枠組みについて考察する必要がある。また、今日、学校が主体となってカリキュラムを開発・編成することが重視されている。その方法についても考察を深めたい。さらに、次の学習指導要領改訂が話題になりつつある現在、平成10年改訂の「ゆとり教育」や平成20年改訂の現行学習指導要領の背景も考えながら、今後の方向についても考察したい。	
	道徳教育の理論と実践	学校における道徳教育は全教育活動を通じて行うものである。本講義では、まず「道徳教育の本質」「道徳教育の歴史と流れ」「道徳教育の理論と実践」について述べる。また、道徳の基本的な指導内容について『学習指導要領・道徳編』を踏まえて解明する。さらに、道徳指導案の作成と模擬授業によって、指導力の向上を目指す。	
	特別活動論	「個と集団の指導の在り方」をテーマに、特別活動、学級経営の役割や内容を理解し、模擬実践を通して、基本的な特別活動・学級経営の実践力を身につけることを到達目標とする。児童生徒にとっての学校における生活基盤である「学級」を中心とした教育活動の在り方を概観し、自己指導力を育み、やる気を育てる個と集団の指導は如何にあるべきかを視座に据えて、学級経営の在り方や特別活動の内容について学習する。また、模擬実践により、学級活動を中心に、基本的な特別活動・学級経営の実践力の向上について検討する。	
	教育方法の理論と実践	文部科学省では「教育の情報化」をビジョンに掲げ、情報教育、教科指導におけるICT活用、校務の情報化の3つを柱として、教育の質の向上を目指している。本講義では、その背景を踏まえ、現代の教授理論、教育情報、教育方法等の基礎的事項、授業実践例を学ぶ。また、ディスカッション、レポート、模擬授業等により、児童生徒の成長を考えた授業方法を習得し、授業を組立てる力の養成を図る。さらに、より工夫された授業を創造し、展開できるように、授業実践力の向上を目指す。	
	生徒指導論 (栄教・養教)	生徒指導を通じた「児童生徒の人格の尊重や個性の伸長」をテーマに生徒指導の意義、児童生徒理解、生徒指導の方法などを理論的・実践的に深めていく。合わせて、教師としての基本的な姿勢や態度・心構えなどを育成する。生徒指導の現状・課題などを概観し、学校教育におけるその積極的な意義を踏まえ、児童生徒の自己実現を図っていくための指導力の育成につなぐ。講義のみではなく必要に応じて実技演習なども取り入れ、実効性のあるものを目指す。	
	教育相談	児童・生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への支援を図るため、カウンセリングの意義や理論、技法等を知る。教育相談のすすめ方はどのようにすればいいのかなどを学校現場のよくある事例から学習する。不登校、非行、学級崩壊、特にいじめに関する認識を深め、防止と早期発見の対処を適切に行う能力を高める。発達障害のある子どもの理解や支援方法も具体的に学ぶ。家庭・地域・関係諸機関との連携の取り組み例を知る。	

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	養護実習指導	<p>養護実習を行うにあたり、教育職員免許法の趣旨に基づき、既習科目の内容の総合的理解を図り、教育実習生として必要な心得や行動、保健室経営に携わる素地を身につけるとともに、養護教諭としての責務を理解する。また、事後指導において課題の整理を行い、望ましい養護教諭像を描くことで、特性をさらに高める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 丸山 有希/8回) 事前指導において、模擬授業の実施により学習指導案の書き方や保健指導の方法を整理し、救急処置について演習を行うことにより、学校現場で即対応できる技術を身につける。 (31 岸本 芳信/3回) 事前指導において実習の目的・意義を理解し、手続き等を含む留意事項を学ぶ。 (33 榎元 十三男/4回) 事前指導において実習にあたっての心構えを学び、事後指導において課題の整理を行う。</p>	オムニバス形式
	養護実習 A	<p>これまでに学んだ理論等を、3週間の実習校での実際の体験を通じて応用し、学校現場と児童生徒への理解を深め、学校保健の専門職としての自覚や態度を身につける。各学校の管理職をはじめ、校務担当教員の講話、学級担任や養護教諭の指導を受けて、学校教育や児童生徒の健康課題について学び、それらに関わる養護教諭の役割について理解する。観察実習、保健指導、救急処置等を行い、また、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。</p>	共同
	養護実習 B	<p>これまでに学んだ理論等を、2週間の実習校での実際の体験を通じて応用し、学校現場と児童生徒への理解を深め、学校保健の専門職としての自覚や態度を身につける。各学校の管理職をはじめ、校務担当教員の講話、学級担任や養護教諭の指導を受けて、学校教育や児童生徒の健康課題について学び、それらに関わる養護教諭の役割について理解する。観察実習、保健指導、救急処置等を行い、また、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。</p>	共同
	教職実践演習(養護教諭)	<p>「養護教諭としての実践的な知識とスキルの習得を目指す」をテーマに、調査、分析、討議、ロールプレイ、事例研究等の方法で、演習授業を展開し、実践的な指導力を養う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 丸山 有希/11回) ①児童生徒理解および保健指導と保健管理、②教職員との連携・調整、③適切な保健室経営、④養護教諭としての使命や責任感・教育的愛情に関する事項について実践的な指導力を養う。 (31 岸本 芳信/2回) 教職の意義と教員の役割について理解する。 (33 榎元 十三男/2回) 社会人としての基本、保護者への対応を学び、資質能力の確認、まとめを行う。</p>	オムニバス形式

授業科目の概要

(看護学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職 関連 科目	特別支援学 校体験活動	<p>学校現場には、特別支援学校だけでなく通常の学校においても、何らかの障がいをもつ子供たちが在籍しており、きめ細やかな配慮が求められる。「特別支援学校体験活動」では、特別支援学校にて各学校での管理職、学級担任、養護教諭等の指導を受けて、観察実習を行う。特別支援学校の現状に触れることにより、養護教諭にとって必要不可欠な、「子供たちの障がい(特性)理解」、「障がいに応じた適切な関わり」について学ぶ。事前・事後の指導では、教育実習の意義、実習記録の取り方、教育課題への対応の仕方、実習後の課題の整理などを行う。</p>	